

令和5年度 社会福祉法人雪の聖母園 法人本部事業報告

新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行されて本年(2024年)5月8日で1年となります。行動制限などは行われなくなり、コロナ治療薬への補助などの支援策も廃止されて、通常の医療体制での対応となりましたが、専門家は「重症化してしまう人がいる病気であることは変わらないので引き続き一定の感染対策は必要だ」と指摘しています。

そうは言いつつも、人の動きはコロナ禍以前に戻りつつあった本年(2024年)の年明け、石川県の能登半島地下16kmにおいて直下型の大地震が発生しました。日本海沿岸の広範囲で津波が観測された他、土砂災害、火災、液状化現象なども各地で発生しました。また、地震による家屋の倒壊が相次ぎ、死者が200人を超えて交通網も寸断されるなど、奥能登地域を中心に北陸地方の各地で甚大な被害が発生しました。

あらためて、被災された皆様には、早期の復旧復興をお祈りしますとともに、不幸にもお亡くなりになられた方々には心からお悔やみを申し上げます

2023年度は、2022年後半から続くロシア・ウクライナ情勢による諸物価の高騰や円安による影響により、数千種類に及ぶ食料品の値上げや、原油高による燃料費の値上げが電気代の値上げに直結し、利用者の皆さんが生活する上で極めて深刻な影響を及ぼしています。

こういった状況の中、2024年度は医療・介護・障害福祉の3つの報酬が同時に改定されるトリプル改定の年となりますが、どのような内容で示されるのか、臨時措置的な対応が行われるのか注目して行きたいと思いますが、いずれにしても取り巻く状況としては厳しい対応が求められます。

また、重点項目として取り組みを進めてきたものとして、施設整備関係で静内ベビーホームの移転新築について、新ひだか町・JR北海道との協議を重ね、2027年4月開設に向けてスケジュールを共有しながら鋭意準備を進めてきているところです

おわりに、我が国の総人口は、2011年以降一貫して減少してきており、確実に人口減少社会へと突き進んでいます。団塊ジュニア世代が高齢者となる2040年を見据えた対策も様々に検討されてきていますが、この傾向が顕著である北海道においては、既に多くの分野で事業の維持継続が懸念されていますし、当法人におきましてもこのことへの対応が迫られています。

こういったことを踏まえて、今後の変化に柔軟に対応できる経営の取り組みやあり方が喫緊のこととして求められますが、今一度社会福祉法人としての役割をしっかりと認識し、地域における社会資源として共生社会を支え牽引してゆくための中心的な存在として、今以上に関係の皆様へ信頼される社会福祉法人を目指してゆきたいと考えますので、引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 法人の事業運営

1) 実施事業

(令和6年3月31日現在)

施設種別	施設名	事業開始年月日	定員
保育所 (第2種) 障がい者支援施設 (第1種)	静内ベビーホーム 雪の聖母園	昭和44年 1月1日 平成18年 10月1日	定員60名 施設入所60名 生活介護55名 就労移行支援10名 就労継続支援B33名
短期入所 (第2種) 共同生活援助(介護サービス包括型) (第2種)	雪の聖母園 事業所さくら	平成18年 10月1日 平成18年 10月1日	併設2名 空室利用 定員32名
相談支援事業 (第2種) 短期入所 (第2種)	雪の聖母園 しみずさわ	平成18年 10月1日 平成18年 10月1日	空室利用
共同生活援助(介護サービス包括型) (第2種) 共同生活援助(日中サービス支援型) (第2種)	しみずさわ ライフネットゆうばり	平成22年11月11日 令和3年5月1日	定員20名 定員20名 生活介護30名 就労移行支援6名 就労継続支援B15名
保育所 (第2種)	月形町認定こども園 花の里こども園 地域子育て支援拠点事業、一時預かり事業	令和3年4月1日	定員80名

2) 職員の状況 (令和6年3月31現在)

地 区	正 職	嘱託臨時等	計
月形 (5事業所)	49名	39名	88名 (男34名、女54名)
夕張 (3事業所)	10名	26名	36名 (男13名、女23名)
新ひだか (1事業所)	17名	11名	28名 (女28名)
全 体	76名 (75)	76名 (70)	152名(145) 男47名、女105名

() 内は令和4年度

3) 会議の開催

理事会

	開催月日	議 題
第1回	令和5年 6月 2日	令和4年度事業報告、決算、定時評議員会日程他
第2回	令和5年 6月19日	理事長、業務執行理事の選定
第3回	令和5年 9月 4日	経理規定の改定他
第4回	令和5年12月 1日	第一次補正予算、電子帳簿保存法に係る規程他
第5回	令和6年 3月14日	第二次補正、事業計画・予算等

評議員会

定 時	令和5年6月19日	令和4年度事業報告、決算の承認、他
第2回	令和6年3月25日	令和5年度二次補正、令和5年度事業計画、予算の承認他

4) 監査の実施

	実施年月	内 容
第1回	令和5年 5月26日	令和4年度事業報告、決算
第2回	令和5年 7月27日	静内ベビーホーム実地監査、第1四半期までの運営状況
第3回	令和5年11月 9日	ライフネットゆうばり、GHしみずさわ他の第2四半期までの運営状況
第4回	令和6年 1月26日	花の里こども園の第3四半期までの運営状況

第5回	令和6年 1月26日	そらち障がい者支援センターの第3四半期までの運営状況
第6回	令和6年 2月28日	障がい者支援施設雪の聖母園の第4四半期までの運営状況

・外部監査

公認会計士事務所による月次の外部監査を定期的に受け、令和6年5月28日には決算監査を受けました。

5) 研修

従来の研修会・セミナーなどの多くが新型コロナウイルス蔓延防止により、開催の中止、若しくはオンライン開催となっている。受講実績、及び内容については、各事業所の事業報告に記載している。

6) 規程等の改正・整備

- ・電子帳簿保存法に係る規程の制定
- ・社会福祉法人雪の聖母園 経理規定の改定

2. 道の指導等

- 1) 北海道保健福祉部法人運営係 実施日 令和5年 9月11日
○法人運営指導監査
結果 文書指導事項並びに口頭指導事項なし
- 2) 空知総合振興局 実施日 令和5年10月 3日
○ライフネットゆうばり令和5年度実地指導
結果 文書指導事項並びに口頭指導事項なし
- 3) 日高振興局 実施日 令和5年11月20日
○静内ベビーホーム令和5年度実地指導の結果について
結果 文書指導事項並びに口頭指導事項なし
- 4) 空知総合振興局 実施日 令和5年11月30日
○花の里こども園令和5年度実地指導
結果 文書指導事項並びに口頭指導事項なし

令和5年度 障がい者支援施設雪の聖母園事業報告

1. 運営状況

1) 概況

障がい者支援施設雪の聖母園では令和5年度において、施設入所支援、生活介護事業、就労継続支援B型事業、短期入所事業の各事業間での連携を強化し、利用者支援に努めました。

利用者の高齢化から、重度化や身体的支援の必要性が増しておりますが、雪の聖母園での暮らしを望まれる方々に対して、支援スタッフ、看護師や栄養士、かかりつけの医師と連携しながら、新型コロナウイルス感染症予防をはじめ、事故や疾患等を含め日常的な健康管理に留意し、支援を行いました。

令和5年度は、疾患から入院の後、医療機関にて逝去された方が1名、身体的機能の変化から高齢者施設への移行された方が1名、グループホームへ移行された方が1名、本人の希望により別施設へ移行された方が1名おり、合わせて4名の退所がありました。また、精神疾患による入院後の生活場所を求めて入所を希望された方が1名、在宅での生活に困難性を感じ入所された方1名併せて2名の入所がありました。

その他にも高齢化による機能低下が顕著な方が増えている中で、日常生活における健康管理やご家族や医療機関との連携、密な引継ぎを行い、職員間の認識を深めました。

令和4年度から継続して令和5年度においても、地域の新型コロナウイルスの感染拡大状況、国や道からの感染予防に係る通知を鑑みながら、日常の支援における感染防止策を行いながら利用者およびご家族に対し、面会、外泊や外出時における感染予防をお願いし、日常的な健康管理についても細やかな支援を継続して実施しました。

残念ながら、5月から6月にかけて施設内においてクラスターが発生し、利用者14名、職員8名が感染してしまいましたが、協力医療機関である月形町立病院の医師看護師の協力を得ながら、罹患した利用者皆さんの体調管理に努めることができました。

安全管理については、防災・防犯委員会が主体となり、利用者および職員の意識向上と訓練の実施、非常時における初動体制の確認等を進めました。令和5年度において災害の発生はありませんでしたが、いつ起こるともわからない災害に対し、利用者の安全確保を担保できるよう資器材の整備について進めました。

防火については、各防火管理者が消防と連携し防火活動を進めました。

消防機関と調整し、感染対策を講じながら消防立会いの下避難訓練を実施することが出来ました。

事故においては、機能低下にともなう転倒や他者とのトラブルによる怪我等が発生

しております。誤薬や服薬ミスについては、継続して発生件数は少ない傾向にありますが、いまだ数件の発生が見られており、継続して再発防止の取り組みを実施してまいります。

権利擁護については、虐待事案が発生した施設への応援派遣職員から実践報告を踏まえた研修会を開催し、日常的な支援の中で不適切な支援がないか振り返りを行いました。意識啓発活動を通じて職員一人ひとりが虐待や不適切な支援を行わない事を誓い、利用者の人権や安心安全が確保されるよう支援にあたりました。

令和5年度においては、日々の支援の中で不適切と考えられる事案はありませんでしたが、不適切な支援とならぬよう支援の向上を進め、万が一虐待が疑われるような際には速やかに報告し、通報義務を遂行することを職員間での共有を図りました。

地域貢献の一環として、コミュニティショップマンマルーナにおいて、地域団体への会合場所の無償提供を行い、幅広い年代の方が集まる場所としてご利用いただいた他、月形高校生徒による新設道の駅における販売メニューの開発についてマンマルーナによる協力を行い、町内催事や試食会等についても参加協力を行いました。

町内団体催事への職員派遣や協力出店を行い、地域における資源として役割を担うことができました。

雪の聖母園家族会については、新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながら奉仕ボランティアにおいていただきました。家族会役員会や総会に数名の職員が参加し、意見交換を行う事が出来ました。

2) 利用者の動向

令和5年度は、逝去に伴う退所、医療機関や他施設への移行に伴う退所、合わせて4名の退所がありました。新規入所については2名の受け入れがありました。

表1 利用者概況

令和6年3月31日現在

事業種別(現員)	男性	女性	平均支援区分
施設入所(48名)	33名	15名	5.0
平均年齢	43.4歳	55.5歳	47.1歳
生活介護(54名)	33名	21名	5.0
平均年齢	43.5歳	56.7歳	48.6歳
就労継続B型(30名)	19名	11名	2.8
平均年齢	55.2歳	64.8歳	58.7歳

3) 職員体制

令和5年度は、4月に支援員1名を採用、年度途中で理学療法士正規職員1名を採用しております。年度途中でリネンのパート職員が2名、年度末に支援員1名が広域異動、嘱託職員2名、パート職員1名が退職しております。

- ・退職～5名（嘱託2名、パート3名）
- ・採用～4名（正規2名、パート2名）

4) 安全管理

(1) 防災防犯

防災防犯については、「雪の聖母園災害対策計画」に則り、計画的に訓練や備えについての検討を重ねました。消防機関立会いの下、避難訓練や講話を実施いただきました。防災については、自然災害への対策として地震想定訓練を8月11日、8月29日に、水害想定訓練を10月9日に実施しました。防災・防犯委員会では、月に一度、各部署から担当職員が参加し会議を開催しました。各々の事業所等において必要な資機材や備蓄について検討を行い、順次整備を進めました。計画的に備蓄の入れ替えや資器材の購入を行いました。

(2) 防火

防火に関しては「令和5年度雪の聖母園消防計画」「令和5年度就労支援センターオプス消防計画」に基づいて、避難訓練、通報訓練を実施しました。

また、岩見沢消防署による防火査察を受け、防火に関する日常的な留意事項等について助言いただき防火対策に努めました。消防機関立ち合いによる火災想定避難訓練は7月17日に雪の聖母園、1月17日に就労支援センターオプスにて実施し、自主避難訓練として11月23日に避難訓練を実施しました。

(3) リスクマネジメント

毎月委員会を開催し、報告のあった事故やヒヤリハットについて検討し、その内容を職員会議やケース会議で他職員への周知や支援の共有、さらに検討を重ね職員間で統一した見解や意識を持って事故防止対策や支援に活かすための取り組みを進めました。事故発生の傾向としてADL機能の低下による転倒等による怪我に加え、利用者同士のトラブルによる転倒や怪我をしてしまう事故が発生していたため、利用者の状態変化を見定めながら付き添いや見守りの頻度を高めて支援を行ないました。

服薬ミスについては、チェック体制を厳格化し、複数職員による服用前の確認に加え、服用後の確認をしっかりと行ったため事故件数が0となりましたが、継続して服薬介助時の動作や利用者氏名のダブルチェック等の基本の支援が確実に実行できるよう支援員間で共有を図りました。

(表3 令和5年度 事故及びヒヤリハット発生内訳について)

時期 内容	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	昨年
服薬ミス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
転倒・怪我	1	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	6	3
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
計	1	0	0	1	0	0	2	0	0	1	1	0	6	7
ヒヤリ	1	2	0	0	2	1	1	1	2	0	1	1	12	5

(4) 感染症予防

感染症特に新型コロナウイルスの予防に関して、全10回の委員会を開催し、感染症の蔓延予防にかかる情報共有や各部署への伝達について協議検討を行いました。新型コロナウイルスについては、国や北海道からの通知や情報を整理し、感染防止対策について検討を行い、各事業所への周知徹底に務めました。

月形町保健福祉課と連携し、希望する利用者や職員に対し円滑に新型コロナウイルスワクチンの接種を進めることが出来ました。利用者は6月、10月に6回目および7回目の接種を行い、職員については利用者と同日ないし個別に日程調整を図り随時6、7回目の接種を行いました。

5月中旬から6月初旬にかけて、施設内、オプスにおいて新型コロナウイルス感染症が複数名発生し、利用者14名、職員8名が罹患しました。肺炎の発症や重症化することなく皆さん軽快されております。

5) 権利擁護

支援の個別化や利用者の自己決定のための支援の充実を図りました。

日常的な支援サービスの提供にあたっては、年度当初に利用者との面談と、ご家族への説明を行い、利用者一人ひとりの個性や身体状況、ニーズに即した個別支援計画を策定し、継続的で本人の実情に即したものとなるよう努めました。また、月例のケース会議においても細部の修正、職員の意思統一を図りました。

令和5年度においては、日々の支援の中で援護市町村や北海道へ報告を要する不適切と考えられる事案はありませんでしたが、不適切な支援とならぬよう支援の向上を進め、万が一虐待が疑われるような際には速やかに報告し、通報義務を遂行することを職員間での共有を図りました。

(1) 虐待防止委員会

虐待防止委員会活動として、日頃の支援事故等から虐待に抵触する可能性がないか協議を行った他、利用者向け研修会や第三者委員を招き利用者との面談を実施しまし

た。外部研修受講後の各部署への伝達することで職員間での共有、意識の統一を図りました。年度初めには、全職員が利用者の人権侵害をしない事を固く心に誓い、北海道知的障がい福祉協会「人権侵害0の誓い」に署名をしました。

(2) 苦情への対応

利用者からの苦情は常設の投書箱を用意し随時受け付けておりますが、投書はありませんでした。利用者の自治活動に一環として行っている利用者会議の場、日常的な支援員との関わりの中で不満や問題となっている事柄について職員間での共有が出来るよう、苦情・相談書式を用い、日常の中で解決できているような困りごとや事案についても整理し、改善できるよう取り組みを行いました。また、第三者委員の訪問日を設け、面談の中で日常生活における楽しい事や困ったこと、不満を感じたことなどについてお話を聞き取っていただきました。相談内容については、利用者間のトラブルや、職員の対応についての相談が寄せられており、利用者同士の関係調整や利用者への説明や対応が丁寧になされていなかったことが原因と考えられました。本人の気持ちを聞くことで不満が解決する場面も見られているため、日常的に傾聴に努めるとともに他利用者や職員に対して誤解や不安のないよう支援の提供に努めました。

(3) 自治活動の推進

雪の聖母園においては利用者会議、就労支援センターオプスにおいては職場会議を開催し、毎月の事業所予定や作業内容、催事等の情報周知や利用者の希望確認等を会議の中で行いました。日々の生活や作業の中での困りごとや意見等について話を聞取りました。施設設備に関わることなどを受け付けており、苦情につながるようなものはありませんでした。

(4) 職員資質の向上

職員資質の向上については、内部研修の実施、外部研修の参加をより積極的に行ない、研修で得た知識や技術を内部研修や会議の中や内部研修にて参加していない職員へ伝達する時間を設け、全体での共有と研鑽を進めることが出来ました

① 外部研修

職員の経験年数や職務内容を考慮し、社会福祉協議会や北海道、空知の知的しょうがい福祉協会の開催する研修会に参加し、支援技術や知識の習得と情報の収集に努めました。

② 内部研修

内部研修に関しては、外部研修内容伝達や利用者共に虐待防止について学ぶ機会を設け、権利擁護研修を行いました。日常的な支援の中で不適切な支援がないか振り返りを行い、利用者の人権や安心安全が確保されるよう権利擁護意識の重要性に

ついて再認識しました。

(表 4 令和 5 年度 研修実績)

項 目	参加回数	延べ人数	備考
北海道	9 回	12 名	
社会福祉協議会	2 回	3 名	
知的障がい福祉協会 (全国・道・地方会)	15 回	22 名	幹事・委員参加は除く
その他	7 回	11 名	食品衛生、就労支援等
外部研修 (合計)	33 回	48 名	
内部研修	4 回	51 名	権利擁護、施設指針、見 学研修等

6) 地域貢献

(1) 地域貢献

コミュニティショップマンマルーナにおいて、地域団体へ会合スペースを無償にて開放しました。また、月形高校の総合学習の一環として、道の駅で販売するメニュー開発を行う中で、考案メニューの試作協力を行いました。7月には夏祭り、2月には町民向けの試食会にて提供し、参加した高校生にはメニュー立案から顧客への提供まで体験していただき、事業所職員のマンパワーや店舗等の環境を資源として地域に貢献することができました。また、事業所の職員が北海道 DWAT として被災地へ派遣、月形町内においても催事の実行委員や月形消防団、社会教育活動等へ継続的に参加し、地域における事業所としての存在意義を持って各取り組みに参加することが出来ました。

(2) 社会への還元

① 福祉実習

福祉の専門職集団として知識や経験を社会へ還元することを目的とし、専門学校を中心に保育、福祉分野の実習生を受け入れました。新型コロナウイルスの感染状況等を鑑みながら学校担当者と連携を図り受け入れを進めました。大学、専門学校等の福祉実習については、受入人数及び延べ日数が減少傾向にあります。

② ボランティア

ボランティアに関しては、例年受け入れている各団体様の受け入れはほとんどありませんでしたが、家族会ボランティアについては継続して受け入り江をしました。また、新たに保険会社から申し出があり、9月には40名超のボランティアを受け入れました。

(表 8 令和 5 年度 福祉実習およびボランティア受け入れ状況)

(受入れ状況)	種別(昨年実績)	人数	備考
① 福祉実習	介護関係専門学校(0名)	0名	
	保育関係専門学校(4名)	6名	こども専門学校他
	合計	6名	延べ 60 日間
② ボランティア	カトリック関係団体(0名)	0名	
	学生	0名	見学・就業体験
	家族会(18名)	名	奉仕日 (5回)
	その他(0名)	42名	東京海上あんしん生命
	合計(18名)	名	

7) 会議

4月1日の職員全体会議において園の基本方針や運営計画の確認を行うとともに、それぞれの会議を年間計画の下、定期的に行いました。

(表 5 令和 5 年度 各会議の実施内容)

会議名	参加者	内容	回数
職員全体会議	全職員	4月1日開催。園の基本方針や運営計画の確認。	1回
調整会議	課長、係長、主任	法人経営会議を受け運営方針等の現場での周知ほか、各部署の連絡調整を行う。	12回
各支援会議 ケース会議	各支援職員 各係支援員	月例および随時会議。入所施設、オプスにおいて利用者支援、個々のケースに関する協議及び職員間の意思統一。	12回
給食会議	栄養士、委託業者、 委員、利用者	給食の内容に関すること全般について。行事食や特別食に関すること。	12回
利用者会議 職場会議	利用者、委員	日常生活、作業活動に関すること全般について。事業所からのお知らせ等。	12回
虐待防止委員会	管理者、課長、係 長、看護師、委員	利用者の苦情解決や権利擁護に関する取り組み、虐待防止に資する研修会企画運営、参加取りまとめを行う。	12回
防災防犯委員会	管理者、課長、係 長、栄養士、委員	防災防犯に係る情報の周知や訓練、研修、啓発活動の企画運営、備蓄や資機材の選定整備を行う。	12回
リスクマネジメント委員会	支援課長、係長、 委員	利用者支援における事故やヒヤリハットの分析	12回
感染症予防対策委員会	課長、看護師、栄 養士、委員	事業所内外に係る感染症予防に関する情報の周知や啓発、研修の企画、マニュアルの整備を行う。	12回

4. 各部署の取り組み

1) 庶務・管理

(1) 施設設備

利用者の方が日常的に快適で安全な生活を送ることが出来るよう、施設および利用者居室等に日常的な使用に伴う劣化、破損については随時修繕を実施した他、経年劣化により不具合が生じていた複合受信機の更新を行いました。また、支援員室等への冷房の設置を行い、就業環境の整備に努めた他、草刈り、除雪など居住環境及び周辺的生活環境の整備に努めました。

(2) 予算の適正執行

サービス区分単位や給付費種別による適正な会計処理を行いました。備品や消耗品の購入、水道・電気・燃料の使用についても無駄のないよう努めました。

走行距離や使用頻度、利用者支援の効率化や安全面への配慮のため車両の入れ替えを行いました。

就労支援における工賃支給額については、555 万円(前年度比 112%)、総売り上げ 2,136 万 (実習委託費も含む) の約 26%の支給をすることが出来ました。

2) 日中活動支援

令和 5 年度は、日中活動の中でも就労的な活動や軽作業を望まれる方に対しては工賃向上に向けた取り組みを継続した他、通所利用者においても理学療法士による機能維持活動やレクリエーション的な活動を含めた日中活動の提供を行いました。重度者中心の活動においては、機能維持に向けた活動やレクリエーションを中心に実施しました。

(1) 生活介護 A

A、B棟利用者の方を中心に労働意欲や社会性を養うことを目的とし、オプスや農場での軽作業を中心とした日中活動を提供しました。利用者個別の特性に合わせた活動内容の模索や就労継続 B 型支援との連携の中で納豆や石鹸の製造、野菜や薪等の生産、委託を受けて実施している公園施設の清掃等を行いました。

(2) 生活介護 B

C棟利用者を中心に機能低下から生産活動への従事が困難である方々に対しては、ゆったりとした日課の中で身体機能維持のためのウォーキングや機能訓練、レクリエーション、音楽活動、創作活動などを提供しました。

3) 就労継続支援 B 型

就労支援センターオプスを活動拠点として、就労継続 B、生活介護の対象者をそれぞれ利用者の意思を尊重し、生産活動を取り組まれる方については工賃向上に向けた作業・実習を提供しました。また、ゆったりとした中で趣味的な日中の活動を希望される方については、それぞれの活動の充実を目指し、個別の活動に重点を置き、や

りがいや生きがい、楽しさ・夢を得ることが出来るように努めました。

令和5年度の就労事業収入は21,105,290円（前年比101%）となりました。令和2年度から続くコロナ禍の影響及び令和5年度コロナ明けとなり全体的な収入を維持することができましたが、利用者工賃を大きく向上させることは出来ませんでした。

(1) 農耕係

令和5年度は337万円（令和4年度361万円）であり、昨年度売上より微減しております。野菜については猛暑の影響、利用者高齢化による収穫時の人員不足が課題となりました。月形刑務所外部通勤・委託作業を依頼や近隣施設の就労支援準備事業の利用者の手を借りながら、昨年と同量程度の生産、販売することができました。薪については継続してアウトドアショップへの販売を行い、個人客からの注文も増加傾向にあります。伐採場所が作業場から徐々に遠くなってきており、運搬や生産等作業効率の低下が懸念されております。

(2) 製造および受託事業

① 納豆製造

令和5年度の売り上げは528万円（令和4年度545万円）であり、昨年より微減しました。イベントや教会関連のバザーについてはコロナ禍前に戻ってきていますが、資材、原料の価格高騰が続き、今後も製造に係るコストが課題となる状況が続き、利用者の高齢化による負担軽減を考慮しながらの生産となりました。

② リサイクル石鹸・ボカシ

令和5年度は製造体制が概ね安定してきており、在庫を確保しながらお客様からの発注に対応することができました。リサイクル石鹸については、イベントでの宣伝効果もあり、少しずつ販売数が伸びています。

③ 工芸・受託加工

昨年度から継続して、刺繍入りエコバッグの制作をお客様からの希望に合わせた刺繍を入れ販売を行っています。コミュニティーショップマンマルーナの商品として利用者の生產品PRを兼ねて販売しています。麻痺や高齢化による身体機能低下が危惧される利用者に対しては、理学療法士による機能訓練や動画を観ながら身体機能向上のため体操を実施しました。

④ 店舗運営

令和5年度は、8,296,963円（令和4年度7,785,444円）の売り上げとなり、昨年度以上の売り上げを上げることが出来ました。催事の開催を行い、多くのお客様に来店いただくことができ、認知度の向上につなげることが出来ました。

その他、月形町道の駅商品開発で地元の月形高校発案メニューの協力を行い、メロンジュースとスイカジュースの開発を行い、夏季催事や町主催の試食会に参加し、好評価をいただきました。

⑤ 受託作業

月形町衛生センターにてリサイクル品の選別業務、皆楽公園管理業務の一環としてのトイレ清掃業務、雪の聖母園のリネンや清掃、消毒業務等、企業からの下請け内職業務、月形町内2団体からの花壇整備事業を請け負いました。

月形町内での作業活動は、施設外において社会人としての社会性やスキルが求められるため、参加利用者に対し説明等を行いながら、作業活動に対して責任を持って取り組んでもらうことが出来ました。

⑥ 月ヶ岡農村公園管理業務・自主事業

管理業務について、トイレ清掃や公園内の環境整備等（ゴミ拾い・草刈り・除雪）を作業活動として年度を通して実施しました。

自主事業については感染症の影響もあり、野菜・物販販売を2回行いました。地域の方に花壇整備を協力していただき、景観保持に努めました。

2) 施設入所支援

令和5年度は、8月に精神病院退院後の生活環境を求めて入所された方、ご家族の体調変化により在宅での生活に困難性を感じ入所された方、合わせて2名の入所がありました。5月にはグループホームへ移行された方が1名、入院加療により末期癌の治療を続けてきたが逝去された方が1名、他施設へ移行された方が1名、2月には高齢者施設への移行のため退所された方が1名おりました。

施設入所生活に関しては、住環境の整備と精神衛生を目的に、継続してすべての利用者に個室にて対応できる体制を整えました。

(1) 余暇活動

余暇活動については感染症の流行状況を鑑みながら、利用者さんの楽しいな活動を取り戻すことができるよう心がけて余暇活動を実施しました。60周年行事の実施に向けて、大きな外部の会場での食事会を実施した交流会や雪の聖母園祭等の催事についても、感染防止を行いながらこれまでと同じようにご家族の皆さんと一緒に楽しんでもらえるよう企画運営を行いました。

旅行については、性質上感染症等による状況変化への対応が困難であるため、日帰りではありましたが、利用者一人ひとりの希望を聞き、行き先や立ち寄りところを選ぶなど、自由度の高い日帰り旅行を実施しました。また、園内での催しについても利用者から意見を聴きながら、お茶会や軽食、カラオケ、レクリエーション等様々な取り組みを行うことでより多くの方が余暇活動を楽しむことが出来るよう取り組みました。

(2) 保健・医療

年間2回の総合健康診断を実施しました。日常の健康管理に関しては内科及び精神神経科主治医による月例の診察及び面談のほか、隔月の身体測定の際に看護師が個別面談

及び血圧測定を行いました。医師の指示等で定期的なバイタルの測定や排便確認等が必要な方は、個々に記録表を作成し時間を設定して実施しました。また、新型コロナウイルスワクチンおよびインフルエンザワクチン接種については、園内にて月形町保健福祉課および町立病院から医師看護師が派遣され、希望される利用者、職員に実施をしました。入院に関しては検査入院等が多くありました。精神不安定、および低ナトリウム血症による服薬調整のため入院した方がおりました。

(表 6 令和 5 年度 諸検診の状況)

項目	医療機関	日程	対象	男	女	計
定期健康診断	医療法人明日香	6月8日	全利用者	33	15	48
		11月27日				
		2月27日				

(表 7 令和 5 年度 科目別通院、入院状況)

診療科目(昨年実績)	実人数	入院	診療科目	実人数	入院
内科系(20名)	21名	8名	皮膚科系(4名)	5名	—
精神神経科系(37名)	39名	2名	泌尿器科系(3名)	3名	—
外科・整形系(5名)	6名	0名	歯科系(3名)	14名	—
耳鼻科系(4名)	4名	—	婦人科系(3名)	3名	—
眼科系(9名)	9名	—			—

※入院延べ日数 計 76日(令和4年度 11名 155日)

(3) 給食

栄養士が委託業者との窓口となり、月例の給食会議及び給食委員会の中で利用者から食事に関する意見や要望を聞き、給食内容の改善や要望事項の食事内容への反映に努めました。また、栄養士が利用者の心身の状況に関する情報を看護師、支援員と共有することで、誤嚥予防や減塩、低カロリー等の各種特別食を適切に提供しました。

月に1度の誕生日お祝い食、ご復活やクリスマスなどの行事食やゴールデンウィークやお盆、お正月等には季節感を感じていただけるよう季節やイベントに合わせたメニューを提供しました。

3) 短期入所・日中一時支援事業

短期入所は年度を通して4名の方25日間の利用がありました(昨年度実績6名17日間)。介護負担軽減のみでなく、入所施設の体験、高等養護学校生徒の現場実習としてご利用をいただきました。年度を通して利用が少なく、依然として利用日数の増加につなげるに至りませんでした。日中一時支援事業については利用がありませんでした。

令和5年度

指定共同生活援助（介護サービス包括型）事業所さくら

事業報告

1. 概要

令和5年度は、感染症の5類移行となり、様々な行事や研修等の開催について、昨年度オンラインを含めたハイブリット式ではなく、対面型が多く、参加することができていました。

また、日中活動の取り組み方や余暇支援・行事に関して、月形町内外のイベントも再開してきており、事業所外での行事にも少しずつ参加出来るよう支援を行いました。

グループホームから単身生活へステップアップを目指す利用者について、今年度は移行の実施はありませんでしたが、その都度本人の意向に合わせて必要な情報提供や援護市町村への相談等の支援を行っています。今年度は、1名の方が退所していますが、1名の方が雪の聖母園より4月の体験利用を経て、5月にグループホームへ入所されました。

その他、虐待防止委員会、リスクマネジメント委員会、感染症予防委員会、防災・防犯委員会の会議を開催し、情報の共有や事例検討を行い職員会議にて周知し情報の共有と支援を行いました

2. ホームの現況 家賃補助1名につき10,000円支給 全29名(男性ホーム3女性ホーム2)

ホーム名	定員/現員	平均年齢	平均区分	支援区分分け
1. さくら (女性)	6/6	61.5	3.5	区分3…4名 区分4…1名 区分5…1名
2. メロン (男性)	7/6	57.1	3.5	区分2…2名 区分3…1名 区分4…1名 区分5…2名
3. ぼてと (男性)	6/6	56.5	3.6	区分3…3名 区分4…2名 区分5…1名
4. すみれ (女性)	7/6	60.8	5.1	区分4…2名 区分5…1名 区分6…3名
5. すいか (男性)	6/5	48.6	4.6	区分3…1名 区分4…1名 区分5…2名 区分6…1名
全体平均		57.20	4.06	
◎日中活動への参加状況 ・生活介護 11名 ・就労継続B 17名 ・就労継続A 1名 ・地域活動支援センター2名（内他のサービスと併用2名）				

(令和6年3月末日現在)

※(資料1)「令和5年度利用者の状況等」参照

3 職員体制

	常 勤		非常勤		計
	専 従	兼 務	専 従	兼 務	
管理者		1			1
サービス管理責任者	1				1
生活支援員	7	3	1	1	12
世話人			6		6
看護師			1		1
合 計	8	4	8	1	21

(令和6年3月末日現在)

4 会議・研修

令和5年度は定例で事業所職員会議について、月に1度実施しました。会議の内容につきましては、業務運営に関わる引継ぎ・報告、利用者の個々のケースにおける支援内容の確認・検討等多岐に渡り取り組んできました。また、研修について対面式が多く開催されており、多数の職員が自己研鑽できるよう積極的に外部研修への参加を行っています。

(1) 会議

名 称	開催日	会議の内容	構成員	開催回数
地域支援職員 会議	月1回定例	運営・利用者支援全般に関する事項の協議	全職員	12回
ケース会議	職員会議時	ケースの課題検討	各担当	12回
個別支援計 画・評価会議	半期定例の 他、随時	個別支援計画の評価及び 作成に関する検討	サビ管・ケース担当 者	2回

(2) 研修参加

関係団体等が主催する研修に17回、述べ21名の職員が参加しました。

	研修・参加行事名	月 日	開催地	人数
1	障がいのある方への意思決定支援に係る地域意見交換会 主催：北海道空知総合振興局	4月25日	岩見沢	1名
2	新型コロナウイルス感染症5類移行にかかる施設 等説明会及び感染症研修会 (オンライン) 主催：北海道空知総合振興局	4月25日	月形	1名
3	令和5年度 職員研修会 主催：空知知的しょうがい福祉協会	6月15日	砂川	2名

4	令和5年度 全道施設長セミナー 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	6月29日 ～6月30日	札幌	2名
5	令和5年度 全国知的障害関係施設長等会議 主催：公益財団法人日本知的障害者福祉協会	7月13日 ～7月14日	東京	1名
6	令和5年度 北海道知的障がい関係支援員研修 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	7月21日	札幌	1名
7	令和5年度 権利擁護セミナー 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	8月23日	札幌	1名
8	令和5年度 保健医療・栄養士調理員合同部会研修会 主催：空知知的しょうがい福祉協会	8月24日	砂川	1名
9	令和5年度 災害対策研修会 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	9月28日	札幌	1名
10	令和5年度 全道知的障がい関係職員研究大会 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	10月13日	札幌	2名
11	利用者研修会実施のための職員研修会 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	11月6日	札幌	1名
12	令和5年度 集団指導及び感染症研修会 (オンライン) 主催：北海道空知総合振興局	11月8日	月形	1名
13	令和5年度 福祉施設職員等スキルアップ研修会 主催：社会福祉法人月形町社会福祉協議会 地域福祉ネットワーク推進協議会	11月24日	月形	1名
14	令和5年度 幹部職員研修会 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	12月12日	札幌	1名
15	令和5年度 地域福祉ネットワーク推進委員研修 主催：社会福祉法人月形町社会福祉協議会 地域福祉ネットワーク推進協議会	2月15日	月形	1名
16	令和5年度 虐待防止委員 意見交換会 主催：空知知的しょうがい福祉協会	2月16日	砂川	1名
17	令和5年度 全道施設長研修会 主催：一般社団法人北海道知的障がい福祉協会	2月19日 ～2月20日	札幌	2名

5 利用者支援

(1) 生活支援

① 健康管理

加齢に伴う高血圧や嚥下障害等の疾患から、身体機能の低下が年々顕著となっており、肺炎や糖尿病といった疾病に関しても重篤になりやすく入院加療の必要性がある等、利用者への支援度合は増加しています。口腔衛生について、年1回の歯科検診や町内歯科定期検診の他、歯周病治療や義歯製作等への通院支援を行なっていました。年1回の健康

診断を行い利用者の健康管理に努めました。

今後も継続して持病等から血圧測定や体温測定等を必要とする方々の情報の共有を行ない、日常的な体調の変化に配慮し、安心して生活することが出来るような環境の提供に努めていきます。

感染症予防対策については、新型コロナウイルスが5類移行されましたが、継続して委員会での情報や保健センターからの感染予防ネット情報や IP 電話での新型コロナウイルス情報・空知総合振興局や北海道 HP の感染予防情報を基に、会議で必要な情報を職員に周知徹底し、利用者の方々への手洗い・うがい・アルコール消毒の励行、1日2回の検温実施、外出・通院時でのマスクの着用等配慮し支援を行ないました。今年度は日中活動場所から利用者の方々へ新型コロナウイルス感染が蔓延し、各 GH でも感染拡大していましたが、大事には至らずに2週間程度で収束されています。

② 食生活

食材配達業者を活用しながらホームごとに利用者の嗜好や健康状態、季節の食材や行事食等にも配慮し「楽しめる」食事の提供、日中活動参加時の昼食と食事の内容重複に配慮し、栄養面が偏らない食事提供を心掛けながら支援しました。また、昼食提供があるオプスや地域活動支援センター担当者との連携に努めながら、加齢に伴う咀嚼・嚥下障害にも留意し、調理方法の工夫や提供環境の改善（一口大、刻み）等を行い、安全で楽しい食事環境の提供に努めました。

③ 日中活動

就労支援センターオプス、月形町活動支援センターむう〜ん、NPO法人サトニクラスの活動にスムーズに参加できるように、事前連絡による支援内容の確認や、連絡ノートを活用して連携を密にして関わりの統一に努めました。今年度、通院や外泊に伴う日中活動への参加・不参加、食事の有無等の連絡が遅れてしまう場面が数回見られた為、各支援員間での連絡調整を徹底していきたいと思います。

④ 余暇支援

休日の外出について、利用者の方のADL状況を鑑みることや購入物品の希望をとりながら、月形町内や近隣市等へ支援を行いました。また、外出先での軽食についても感染症流行以前のように店内での飲食を再開して充実した外出になるよう心掛けました。地域行事（町内行事、お祭りなど）について、今年度は予定通り開催しており、多くの利用者の方達に楽しんで頂けるよう支援を行いました。施設内行事（創立記念食事会・雪の聖母園祭・クリスマス会等）の企画について、感染症流行を鑑みながら、段階的に参加者を緩和していき、ご家族の方とともに参加されています。旅行については、今年度日帰り小旅行として近隣の市町村へドライブや昼食・温泉等を計画し実施しました。また、GW・お盆・正月等の期間についても昼食を含めた外出等の計画を行い実施しました。

行事・利用者研修等

	研修・参加行事名	月 日
1	ご復活の主日イベント	4月9日
2	GW イベント	5月3日～7日
3	つきがた夏祭り	7月29日
4	雪の聖母園創立記念食事会	8月1日
5	地域七夕会	8月6日
6	夏季作業休止期間イベント	8月11日～16日
7	世代間交流会（5名参加）	9月9日
8	雪の聖母園祭	9月23日
9	空知フレンドカレッジ（6名参加）	11月19日
10	日帰り旅行	11月6日、8日、12日 14日、17日、21日 23日、27日
11	地域クリスマス会	12月25日
12	年末年始イベント	12月30日、1月3日
13	節分イベント	2月3日
14	ご復活の主日イベント	3月31日

6 防災・安全

各ホームの避難訓練を消防署立会いも含め、4回実施しました。

昨年度と同様に岩見沢地区消防事務組合月形支署の方達と相談を行ない、感染防止に努めながら訓練・研修を実施しました。

また、救命講習会については数名の職員が参加し、AEDの使用方法や緊急時の処置等を学べる機会を持てるよう岩見沢地区消防事務組合月形支署職員と連携のもと実施しました。

避難・通報訓練、防犯研修

	実施日	内容	訓練状況
1	8月16日	火災想定GH避難訓練	自主訓練
2	9月18日	火災想定GH避難訓練・通報訓練	消防立合い
3	10月19日	普通救命講習会	
4	11月19日	自然災害避難訓練（地震）	自主訓練
5	2月24日	自然災害訓練（水害）（DVD上映）	自主訓練

令和5年度 利用者 の 状 況 等

事業所名 相定共同生活援助(介護サービス包括型)事業所さく5

1 利用者実人数

区 分	令和 5年					令和 6年					年度計		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月
障害支援区分1及び非該当													
障害支援区分2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
障害支援区分3	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	10
障害支援区分4	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
障害支援区分5	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
障害支援区分6	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

(単位:人)

2 利用者延べ人数

区 分	令和 5年					令和 6年					年度計		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月		2月	3月
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
障害支援区分1及び非該当													
障害支援区分2	60	62	60	62	58	60	62	60	60	60	58	62	724
障害支援区分3	293	295	270	298	279	287	290	264	262	252	257	274	3321
障害支援区分4	204	217	205	215	210	210	213	208	214	207	203	213	2519
障害支援区分5	207	190	194	206	190	204	211	205	209	191	203	211	2421
障害支援区分6	119	116	120	121	120	120	124	117	121	120	116	120	1434
													10419

(単位:人)

令和5年度 共同生活援助事業所さくら 通院記録(件数)

	病院名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	月形町立病院内科	16	7	18	8	5	14	10	8	8	10	17	8	129
2	月形町立病院整形外科	1	3	3	4	3	2	2	2	2	2	2	2	28
3	月形町立病院眼科		2		1								2	5
4	月形町立病院皮膚科		2	1	1	3	2	4	3	4	6	3	2	31
5	岩見沢市立病院メンタルヘルス	12	7	6	14	18	10	9	10	10	9	11	10	126
6	岩見沢市立内科		1	1		1								3
7	岩見沢市立外科						2	1						3
8	岩見沢市立泌尿器科	1				1			1			1		4
9	岩見沢市立消火器内科		1	1	1	1	1							5
10	北海道中央労災病院							1						1
11	いとう耳鼻科	2			2	2		2		2		2		12
12	山崎歯科	5	2	1	7	3	6	3	5	3	2	9	4	50
13	札幌大		1						1					2
14	よしむら糖尿病クリニック	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
15	はた形成外科クリニック					3	1							4
16	砂川市立病院精神科		1		1			1		1		1		5
17	岩見沢脳神経外科	2		1	1			1						5
18	天使病院							1						1
19	レディースクリニック		1			1			1			1		4
20	倉増整形外科					1						3	5	9
21	宮本泌尿器科											3	1	4
22	北翔会病院整形外科					1					2	2	1	6
23	エスト皮膚科クリニック	3	4	1	3	3	3	2	1	3	6	3	2	34
24	びばい眼科					1								1
	合計	43	33	34	44	48	42	38	33	34	38	59	38	484

令和5年度 指定相談支援事業所「ビンクルム」

事業報告

1 事業

令和5年度、指定相談支援事業所「ビンクルム」では、障がいのある方々がより安全に、より安心して生活していけるよう支援をしています。日常生活で困ったことや難しいことがあった場合には、各関係機関との情報共有を行ない、当事者の方やご家族とコミュニケーションを図って、ご本人の希望される生活に少しでも近づけるようにサポートを行ないました。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行があり、計画相談に係るモニタリングについて、電話でのモニタリングのみの受け付けから、対面での面談を受け入れる事業所が多くなりました。電話のみでのやり取りに比べると、対面で顔を見ながら話をすることで、当事者の方からより深くお気持ちについて、現在の状況について聞き取りできる場面が増えたように思えます。継続して、モニタリングを行なう際には、当事者の方々が思っていることを話しやすいように雰囲気作りに努め、ご本人に適したサービス利用や必要に応じたサービス変更につながるよう柔軟な対応を心がけて支援を行ないました。

2 対象者

月形町・岩見沢市・夕張市にお住まいの方々を対象に、月形町にお住まいの方を優先して相談事業にあたりました。計画相談に係るサービス等利用計画、またモニタリング報告書の作成に関しては、上記3市町以外にお住まいの方についても、各関係機関からの問い合わせがあった際には、状況を十分に精査した上で必要な対応を行ないました。

3 運営内容

(1) 基本相談（月形町委託相談事業）

令和5年度も同様に月形町内にお住まいの障がいのある方、またはご家族からの相談に携帯電話にて24時間、365日受付ができるよう体制を整えました。単身またはご夫婦でお住まいの利用者の方からの相談が中心で、行政手続きや日常生活での緊急的な対応(利用者の方の転倒による怪我の対応、各種手続き、医療機関受診対応、福祉サービス利用開始変更準備等)、人間関係での相談、電子機器の使用方法確認、住環境についての相談等多岐にわたり支援を行ないました。

(2) 指定特定・児童

新型コロナウイルスの動向に注視しながら、実施対象区域（月形町・岩見沢市・夕張市）を中心として、土日祭日を除く平日（12月29日から1月3日休業）に計画相談を行ないました。営業時間は午前9時から午後5時までとし、計画通り実施致しました。また、上記実施区域以外の近隣地域でも、必要に応じて計画相談を行ないました。その他、児童についても新規で2件の障害児相談支援の提供をしています。

(3) 指定一般

令和5年度の地域定着支援について、実績はありませんでした。地域移行支援については、同法人内ではありますが、施設入所支援を利用されている方の共同生活援助事業所移行対応をしています。これからも施設や病院から自立して生活を希望する方がいた場合は病院や施設と密に連携を図り、地域で安心して生活していけるようにサポートしていきたいと考えています。

3 実績

(1) 月形町委託相談事業

①対象者の状況

主に現在単身で生活されている方、またはご夫婦で生活されている方からの相談を受けました。年齢を重ねてきていることによる認知面の低下、また身体面での低下が見られる方もおり、居宅介護で支援をされる居宅介護事業所や日中活動の支援をされる就労支援事業所、行政等と情報共有を行ないました。また、緊急性がありやむを得ない場合には医療機関受診対応も行なっています。月形町外在住者からの相談について行政側より利用者の方の情報をいただき、当事業所で対応することや月形町の関係機関より、障がい福祉サービスの利用希望の方のお話を伺い、利用に係るサービス等利用計画案の作成等を行ないました。その他、月形町役場福祉課と連携を図りながら月形町在住の障がいのあるお子様、またはご家族に対して相談支援を提供しています。

<相談を受けた人数>

	実人数	知的	精神	身体	その他
障害者	17	14	2	0	1
障害児	0	0	0	0	1
計	17	14	2	0	1

②相談方法とその内容

相談方法については、ご自宅や日中活動事業所に訪問をしてお話を伺うことが多く、訪問の際にはマスクの着用や手指消毒等の感染症予防対策を継続し対応しています。電話での相談やご本人に同行しての通院や行政、銀行での手続き等も多く見られています。

相談内容については、家計・経済についての相談が最も多く、生活費、家賃、公共料金の支払い、お小遣い等の金銭面での相談、サポートを主に行なう等の手厚い支援を行なっています。また、福祉サービスや健康・医療についての相談も多く見られ、関係機関各所と情報共有を行ないながら対応しています。当事者、ご家族からの要望があった際には、各方面の日程調整を行ない担当者会議の主催をしています。

<相談方法> 計 503 件

	訪 問	来 所	同 行	電 話
件 数	250(49.7%)	6(1.2%)	56(11.1%)	120(23.9%)
	メール	会議	関係機関	その他
件 数	29(5.7%)	0(0.0%)	14(2.8%)	28(5.6%)

<相談内容> 計 503 件

	福祉サービス	健康・医療	社会参加	権利擁護
件 数	52(10.3%)	103(20.5%)	28(5.6%)	0(0.0%)
	家族・人間	家計・経済	就 労	生活技術
件 数	8(1.6%)	170(33.8%)	23(4.6%)	17(3.4%)
	情緒	障がいの理解	その他	
件 数	1(0.1%)	0(0.0%)	101(20.1%)	

(2) 指定特定・児童

①対象者の状況

すでに障がい福祉サービスを受けている方の計画相談、新規で障がい福祉サービスを利用される方、また高等養護学校を卒業した方、身体に障がいのある方、一度一般就労したものの上手くいかず福祉サービスを希望される方に対し、計画を作成しモニタリングを行ないました。昨年に比べ、サービス等利用計画件数が減った分、モニタリング件数が増えて、全体の件数としては大きく変わりありませんでした。今年度は、児童の方に対しての計画、モニタリングも件数に含まれています。

<援護者別実施件数>

	月形町	岩見沢市	札幌市	空知管内(市)	空知管内(町)
サービス等利用計画	1 6	2 4	1 0	2 6	6
モニタリング	4 4	8 5	6 8	8 2	2 1
	道内(市)	道内(町村)	道外	合計	
サービス等利用計画	1 4	7	0	1 0 3	
モニタリング	4 0	4 2	6	3 8 8	

<福祉サービス種別実施件数>

	施設入所	GH	在宅(単身者)	在宅(家族同居)
サービス等利用計画	27	46	8	22
モニタリング	115	205	24	44
	計			
サービス等利用計画	103			
モニタリング	388			

②作成費

モニタリング・サービス等利用計画の全体作成件数は前年度と大きく変わりはないですが、計画件数が減ったため作成費が若干少なくなっています。

<作成回数と収入>

	4月	5月	6月	7月	8月
計画作成件数	23	5	6	6	6
モニタリング件数	18	18	38	26	38
作成費収入	686,320	366,540	697,730	508,850	696,730
	9月	10月	11月	12月	1月
計画作成件数	5	24	7	3	6
モニタリング件数	57	14	19	37	26
作成費収入	989,030	649,420	419,030	624,740	509,010
	2月	3月	合計		
計画作成件数	7	5	103		
モニタリング件数	37	60	388		
作成費収入	696,630	1,029,220	7,873,250		

*前年対比 99.2% (昨年7,937,510)

4 研修

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行があり、対面形式での研修参加が多かったです。改めて対面方式の研修に参加をすることで、タイムラグのない質疑応答や著名な鼎談者の方々のお話等の熱量を肌で感じ取ることができたと思います。

	研修名	主催	月 日	開催方法	人数
1	令和5年度 南空知地区障がい者雇用支援地域合同会議	空知障がい者就業・生活支援センター	7/4	Zoom	1
2	令和5年度 全道施設長セミナー	北海道知的障がい福祉協会	6/29～6/30	対面方式	1
3	令和5年度 3圏域合同フォローアップ研修	障がい者相談支援センター夢民 総合相談支援センターHIROBA 地域生活支援センターあ〜ち	8/29	対面方式	2
4	令和5年度 コミュニティソーシャルワーク実践者養成研修	社会福祉法人 北海道社会福祉協議会	10/26～10/27	対面方式	1
5	令和5年度 幹部職員研修会	北海道知的障がい福祉協会	12/12	対面方式	1
6	令和5年度 全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	2/19～2/20	対面方式	1

5 その他

- ・障がい支援区分認定調査につきまして、芦別市から1名、札幌市から1名、静岡県沼津市から1名、網走市から1名、余市町から1名、稚内市から1名の調査依頼があり実施しました。

- ・同法人の「ライフネットゆうばり」で行なう「生活困窮者自立支援事業」との連携については、面談・同行を含め対応しており、サービスの利用や就労のみならず生活についての相談を受けて支援を随時行なっています。

- ・月形町からの障害者相談支援事業委託について、委託料については非課税との認識があり、消費税分が未払いとなっていた。昨年度に消費税未払いの報道が相次ぎ、事実確認後、過去5年分の委託料消費税を雪の聖母園で立て替えて支払いをしている。今後、月形町から消費税分に延滞税を加えた額、令和5年度分・令和6年度分の消費税を合計した額が支払われる予定。

令和5年度

月形町認定こども園花の里こども園 事業報告

1.運営概況

令和5年度は、3歳未満児の途中入園が多く、保育士の状況から、要望通りの受け入れが難しいこともありました。保護者に了承していただき、時期を調整し、年度内に全員を受け入れることができました。町内での出産数が増えているということではないようですが、0歳、1歳の入園希望が多くなっており、0歳、1歳児が増えたことにより、保育室が手狭になり、子どもたちの遊びに制限を掛けなくてはならない状況もありました。年度途中ではありましたが、急遽保育室の使用目的を変更し、新たなクラスを作り、対応してきました。その結果、安全にのびのびと生活やあそびを展開することができていました。子どもたちも環境の変化を受け入れ、保護者からも理解を得られていました。

3歳未満児は、毎日の保育の様子を連絡帳で保護者とやり取りしていますが、3歳未満児が増えたことで、職員が連絡帳に記入する業務も増え、休憩時間を削って記入しなければいけない状況であったため、10月より連絡帳アプリを導入し、園と保護者それぞれスマートフォンでのやり取りとなっています。慣れるまでは、お互いに混乱がありましたが、徐々に慣れ、活用しています。

新型コロナウイルスが5類に変わり、通常通りの行事が行われるようになり、特に5歳児の毎日が行事に追われてしまうような状況になる時期がありました。様々な経験を大切にしたいうえで、必要な活動、行事を吟味する必要性も感じてきました。例年通りにとらわれず、子どもたちのあそびを充実していくことを課題としていきたいと感じた年でした。

小学校との連携において、月形小学校の「スタートカリキュラム」、「入学までに身につけさせたいこと」を共有することができました。今後の保育運営において、それらを参考にしつつ、子どもたちが次のステップに進んだ時に大きなハードルとならないよう、こども園の職員と小学校の教員との連携を大切にしていきたいと考えております。

2.園児の状況

《月別在籍数》定員80名

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
0,1,2歳児 (内特別支援)	30	30	30	31	32	33	35	38	40	39	40	40
3,4,5歳児 (内特別支援)	33 (2)	34 (2)	34 (2)	34 (2)	34 (2)	34 (2)						
在籍合計	63	63	63	64	65	66	68	72	74	73	74	74

3.職員状況

今年度も、年度途中で募集を行っていましたが、応募はありませんでした。保育士資格はないものの看護師資格保有の方を3名保育補助として、パート採用ができました。また、農業を営んでいる方（保育士資格保有）で、農閑期に来ていただける方が、11月から来ていただくことで、年度途中の新入園には、対応できるように定着しつつあります。

《職員体制》合計25名（3月31日時点）

保育士…正職員10名（主任含む）、パート13名

他…子育て支援員（英語教諭・パート）1名、環境管理（パート）1名、園長

《採用》7月25日付：パート保育補助1名（11月末まで）、

9月5日付：パート保育補助1名

11月1日付（農閑期のみ）：パート保育士1名、パート保育補助1名

1月24日付：パート保育士1名

《健康診断》・定期健診（腰痛検査）6月9日（札幌健診センター）

4.保育状況（クラス総括より）

(1) 0,1歳児ちゅうりっぷ組

年度途中の入園が多く、低月齢、高月齢で発達の差が大きく、あそびを保障するにも、安全に保育を行うにも支障をきたすと感じ、0歳児と1歳児お部屋を分けて活動しました。活動内容もそれぞれ計画を立て実践することで、子どもの月齢にあった活動で、のびのびと参加できていました。新入園児には、特定の保育士がつき、安心して過ごせるように関わりながらも、すでに在園している園児が満足できるよう活動を工夫しました。

特定の児が、理由なく他児を噛もうとする姿があり、けがにつながらないように配慮してきました。

(2) 1歳児さくらんぼ組

10月より、1歳児さくらんぼ組として活動してきました。初めは戸惑いも感じられ、移行当初は、他児とのトラブルでの噛みが多くなってしまいました。生活面での見通しが持てるようになると、自分で行なおうとする姿に保育士がゆったりと関わることができ、意欲を引き出し、自分で考えて行動する姿につながっていきました。

食事面で咀嚼が進まず、口にため込む姿や偏食が多い姿が目立ちました。関わりを工夫する必要があると感じました。

(3) 2歳児すずらん組

保育士と遊ぶ姿から、お友達同士であそぶ姿へと成長が見られました。それと同時に物の取り合いなどのトラブルも増えていきましたが、保育士の仲介により、他児の気持ちを理解していく姿が変わっていきました。表現活動では、歌や手あそびを楽しむ姿が見ら

れ、毎日の保育に取り入れていきました。リズムあそびも楽しく参加しながらも正しい動きを身につけるようになっていきました。

(3) 3歳児こすもす組

基本的な生活習慣は、一人ひとりができる部分を見極め、関わってきましたが、じっくり関われない部分もあり、手洗いなど雑になっていた姿がありました。

集団の中で話を聞くことが難しく、離席する児が複数いることから、クラス全体が落ち着かなくなってしまうことがありました。また、複数の指示理解が困難な児もいることから、人数は少ないクラスですが、複数担任で関わってきました。今後、関係機関との連携を密にとっていきます。

(4) 4歳児ばら組

自分の気持ちを言葉にして、表現することが苦手な子が多く、特に男児の中でトラブルが多くありました。子どもの素敵な姿を保育士が認め、言葉で伝えることで、他児の見る目も変わり、相手の良さをほめていく姿に変わっていきました。

運動会、発表会など大勢の人の前で、恥ずかしさを感じながらも表現してきました。褒められたり、認められたりすることで、自信を持つことができるようになりました。

(5) 5歳児ひまわり組

全体的にクラスの中での人間関係は非常に良かったと感じます。他児を思いやる気持ちや気づかう姿が良く見られるようになりました。活動での順番が守れないなど自分の我を通す姿が一部の子に見られ、気持ちがぶつかることもありました。心に訴えかける絵本を使用したり、クラスでの話し合いで気持ちをテーマに話し合うことなどで、他児の理解につながったケースもありました。

特別支援では、年長になる前に就学を踏まえ保護者と児の姿を共有することで、教育委員会、保健福祉課と連携し、特別支援教室への在籍につなげることができました。

(6) 保育活動

毎日行っているリズムあそびは、3,4,5歳児では定着しており、保育参観でリズム発表会として、保護者に参観していただき好評を得ています。

えいごのじかんでは、興味のある子は、課題を終わらせ、次の課題へ挑戦していました。園の英語教員が月形小学校の英語の授業も担当しているので、小学校へ行っても、滞りなく進めることができていると感じています。

5. 行事

感染症の懸念はしつつも、一通りの行事は行えるようになりました。コロナ禍より、保護者参加の行事が減っていたので、なつまつりを保護者と一緒楽しむことができ、親子で喜んでいただけました。

6. 給食

給食委託会社と連携を取り、様々な食材を提供していただきました。年度初めは、好き嫌が多く残食があった子どもも、徐々に嫌いなものでも少しずつ挑戦する姿に変わり、年度後半には、ほとんど残食がない状態になりました。

アレルギーや離乳食の個別対応など3歳未満児が多かったため、たくさんの種類の献立の作成、調理をすることとなってしまう、アレルギーの提供間違いでの誤食が1回ありました。調理員、保育士、配膳職員が連携して安全に提供することを心がけていきます。

また、胃腸炎などの感染症が流行した際は、緊急時消毒対策のマニュアルに切り替え、食器等の消毒をしてから厨房内へ入れるということを徹底するなど衛生面に力を入れてきました。

7. 保健衛生

5月連休明けから、コロナウイルスは5類になりましたが、引き続き消毒、換気に努めてきました。

- ・園医健診 年2回 《嘱託小児科医》出口小児科医院（岩見沢市）出口 靖 氏
- ・歯科検診・フッ素塗布 年2回
《嘱託歯科医》山崎歯科医院（月形町）山崎 伸太郎 氏
- ・フッ化物洗口（4,5歳児）週2回法（水、金）
- ・身体測定 月1回
- ・のびのび訪問事業、発達検査（臨床心理士、保健師来園） 年間5回実施
- ・道立子ども総合医療・療育センター（こどもっくる）の専門支援事業として、対象児童4名の相談支援を受けました。（事前に発達検査を受ける）

8. 防災、安全管理

（1）防災

高齢者施設への防火呼びかけ訪問がコロナ禍以来再開され、月形緑苑さんの敷地内（戸外）で、和太鼓演奏、お遊戯などを披露してきました。

- ・避難訓練 ・火災（月1回）、地震（年1回）、水害、避難場所への移動（年1回）
- ・秋の火災運動広報活動（広報車の防災呼び掛け、ポケットティッシュのお絵描き）
- ・救命救急講習会 《講師》岩見沢地区消防事務組合月形支署 正職員9名参加
- ・消防設備点検 4/28、11/22（消防報告） ・防火査察 11/24

(2) 事故報告

《事故報告》

誤食・・・1件（道への報告）

（通院事故）骨折・・・1件

腱断裂疑い・・・1件

《ヒヤリハット》

誤食の恐れ・・・2件

玄関からの飛び出し・・・2件

（保護者や小学生のお迎え時）

9. 苦情受付・・・なし

10. 職員研修

《外部研修》

道立特別支援教育センター 幼稚園等コース 1名（オンライン）

北海道社会福祉協議会 保育士等専門研修 1名（オンライン）

北海道社会福祉協議会 地域子育て支援センター研修 1名（オンライン）

こどものとも社 遊びを支える保育環境 6名（オンライン）

日本カトリック児童施設協会東北ブロック施設長研修・職員研修 1名（旭川）

《園内研修・委員会》

・理事長研修（5/29） ・リズム活動（7/6） ・救命救急講習（8/4）

・保健衛生研修（9/6） ・不審者対応（11/15）

・保育向上委員会（正職員対象） 0,1,2歳児（0,1,2歳児担任、主任）年間9回
3,4,5歳児（3,4,5歳児担任、主任）年間9回

・虐待防止委員会 職員に対して、園児の尊厳が守られているかのチェックリストを実施し、振り返る機会としました。

・苦情解決委員会 保護者向けにアンケートを実施し、職員全体で確認しました。

11. 会議

(1) 保育会議 月1回（年間12回）

(2) 主任リーダー会議（園長、主任、リーダー）（年間8回）

自己評価委員会、苦情解決委員会この中で行ってきました

(3) 年齢別会議

昼間時間を取ることが難しく、個別に話し合い、必要なことは書面で伝えてきました。

(4) 給食会議（ほくと給食課長、栄養士（または調理員）1名、主任、園長）月1回

12. 保育実習、体験

月形高校就業体験 3名

月形中学校職業体験 3名

養成校の保育実習は、ありませんでした。

13. 地域との交流

- ・月形小学校1年生交流授業、月形小学校入学児童引継ぎ、学童保育入所児童引継ぎ
- ・ふれあい大学（高齢者）体育大会 4,5歳児参加
- ・幼年消防クラブ防火訪問 4,5歳児参加 《月形緑苑》
- ・月形町教育振興会参加（岡崎、豊田） ・学校運営協議会委員（豊田）
- ・子ども子育て会議委員（豊田） ・月形町自立支援ネットワーク委員（中山）
- ・月形町地域福祉ネットワーク委員（若井）
- ・広報活動-町民全戸配布のおたより（2か月に1回）、ホームページ掲載、フェイスブック投稿

14. その他

- ・運営指導監査（11/30）指摘事項はありませんでした。
- ・監事監査（1/26）指摘事項はありませんでした。

地域子育て支援拠点事業

子育て支援センターみどりのたね 事業報告

3歳未満児の入園が多く、令和5年度も対象児童が少ない中で開催しました。年度後半には、新たにお母さんになられた新生児を連れての参加が増え、にぎやかになってきました。

- ・しろくまちゃんこぐまちゃん あそびの広場 20回計画 19回開催 参加者延べ76組
- ・おしゃべりカフェ 3回開催 参加者延べ7名
- ・おやこDEキッチン（満1歳6か月以上）
3回計画しましたが、対象児童が少ないため、1回実施 参加者1組
- ・たのしい☆えいご（満2歳以上、在園児2歳以上合同）
8回計画しましたが、対象児童が少ないため、みどりのたねでの参加は 延べ2組
- ・出張子育て支援 cou-cou 町の乳幼児健診の場 5回開催 参加者延べ34組
- ・絵本の貸し出し 32冊
- ・子育て相談
一時保育利用について、子どもの発達についてなど（食事、いやいや期など）、お話を聞きながら、共感をし、アドバイスなどをしました。相談件数9件
- ・キッズルーム（子育て支援の開放） 利用延べ37組
- ・広報活動 町民全戸配布のおたより（2か月に1回発行）、IP電話告知

一時的保育事業 事業報告

今年度は、8月から保育園留学を受け入れ、本州からのお友だちをお迎えしてきました。そのほか、他市町で、待機児童になっている児を受け入れることが多くありました。

- ・利用数
 - (1) 終日利用 延べ84名
 - (2) 半日利用 延べ11名

R5年度

現況報告用 花の里こども園 延べ利用数

	園児	特別支援	一時預かり	子育て支援
4月	61	2	2	10
5月	61	2	3	12
6月	61	2	0	18
7月	62	2	0	13
8月	63	2	10	19
9月	64	2	11	9
10月	66	2	14	11
11月	70	2	13	6
12月	72	2	8	23
1月	71	2	5	9
2月	72	2	15	21
3月	72	2	14	6
合計	795	24	95	157

2023年度

ライフネットゆうばり 事業報告

1、運営状況

1) 概況

2023年度においては日中サービス支援型グループホーム、短期入所事業、共同生活援助事業、生活介護、就労継続B型の事業運営を行いました。就労移行支援事業に関しては新規利用者が見込めないことから、年度途中で休止しました。

夕張市から無償譲渡を受けた旧ユーパロ幼稚園は改修工事が終了し、7月10日「ライフネットゆうばり通所センター」として開設しました。

新型コロナウイルス感染症の対策を継続する中、年度内を通して北海道の対策や法人の指針に則り定期的に感染症対策委員会を行い、行事内容の変更や日中活動の停止、通院の代行など事業所内での感染症対策を適宜実施しました。

2024年3月31日時点での利用者総数は前年度と同じ45名で、職員数は4名増3名減の37名となりました。

地域社会への貢献活動として、職員が消防団活動や商工会、飲食店連合会等の市内各団体の役割を担ったほか、管理者が社会福祉法人夕張保育協会の役員、夕張市自立支援協議会会長、夕張高等養護学校の学校運営協議会会長、民生委員推薦会委員及び新規に社会福祉法人清光園の監事を務めました。また、相談支援職員が療育推進協議会委員、特別支援教育連携協議会委員を務めました。

地域行事に関しては地域の皆さんや市内他法人と協力し「南清水沢ふれあい祭」を事業所前で4年ぶりに開催したのをはじめ、市内のお祭りやイベント、行事等が徐々に再開され、パンやカレーのイベント販売や利用者の行事参加も行いました。パン工房では定期的に新商品を開発、販売し、店舗及び外部販売はほぼコロナ前の状況に戻りました。カレーハウスにおいては週替わりメニューの導入やデザートや飲料メニューの充実により、来店者が増えるとともに客単価も上昇しました。

個別支援計画等の説明会は感染症予防の対策から中止としましたが、各担当職員からの電話連絡、資料郵送等でご家族からのご意見をいただきました。秋の旅行に関しても道内外の新型コロナ感染状況に配慮しつつ、利用者の皆さんの希望を募り一泊旅行を3回に分けて実施しました。

2) 利用者の動向

年度途中でショートステイ利用者1名が日中サービス支援型グループホームに移行しました。3月31日現在で、日中サービス支援型グループホーム利用者19名（男性10名・女性9名）、介護サービス包括型グループホーム利用者20名（男性11名・女性9名、うちサテライト4名）、通所、ショートステイ利用者6名（男性4名・女性2名）総利用者数45名となりました。

3) 職員体制

2023年度は生活支援員（パート）3名を採用しましたが年度途中で生活支援員（パート）2名が退職しました。2023年3月現在の職員数は37名（男性12名、女性2

5名、正規10名、嘱託等27名)でした。(3月31日付で就労支援課長1名、嘱託支援員1名退職)

4) 修繕・環境整備

夕張市から無償譲渡を受けた旧ユーパロ幼稚園はカレー工場及びパン工場の移転、作業所の移転、内装工事、屋上防水工事等の改修工事が終了し、7月10日「ライフネット ゆうぱり通所センター」として開設しました。

感染症対策に関してはアルコール消毒器や非接触体温計などの日常衛生備品に加え、フェイスシールドや防護服、高機能マスク等感染発生時に必要な物品を整備するとともに、事業所内の定期的な消毒、清掃や来客制限等を継続し、法人の方針に基づき地域の状況を考慮した対策を実施しました。

5) 防災

7月28日に地震を想定した災害訓練を実施したほか、火災想定避難訓練を5月26日と12月27日の2度実施しましたが、いずれも感染症予防の観点から夕張消防の立会いは求めず、自主訓練としました。3月27日には消防団職員により、利用者、職員を対象に風水害を想定した災害講習会を開催しました。新任職員を中心に防災業者による非常通報機器の説明会を行い、緊急時対応の意識の向上とスキルアップに努めました。また、火災以外の災害(風水害、土砂災害、雪害等)に関する防災マニュアルの整備や空知災害対策委員会との連携を通し、非常時における行政や消防等関係部署との体制を整備しました。

6) リスクマネジメント

管理者、課長、看護師参加の感染症対策委員会を継続して実施し、北海道の動向や法人の方針、地域の感染状況を鑑みた感染症対策を講じ、利用者、職員間で周知徹底しました。また看護師を中心に感染症発生時のマニュアルや事業継続計画を策定し、万が一の場合に即応できる体制を整えました。

権利擁護や虐待防止などの研修会は対面やハイブリッドでの開催が増え、感染症対策関係も含め適宜参加しました。

事業所内での事故や事故につながる案件に関して、インシデントレポート等を活用し職員間で情報と対策の共有に努めました。

7) 給食

栄養士と委託業者の北日本フードサービスの連携の下、利用者の健康や安全に配慮した食事提供を行いました。また、例年通り毎月定例で役職員や看護師を含めた給食運営会議を実施しました。給食は定期的な利用者の嗜好調査をもとに、作業所で現場提供をするお楽しみメニューを毎月実施したほか、全国のご当地メニュー、季節に合った行事食、選択食を年間で40回程度提供するなどバラエティー豊かな内容で、利用者の皆さんや相談日の第三者委員からも好評をいただきました。またパン工房の試作試食を兼ねたパンバイキングは回数や内容を見直し、サンドイッチバイキングや手作りのデザートバイキングなども実施しました。2月15日に法人の他事業所と同日で委託業者の入札を実施し、引き続き北日本フードサービスと契約することとなりました。

8) 職員研修

対面集合形式での全道規模研修会も増えたため、職責や職務内容に合った研修会に適宜参加しました。特に感染症対策や権利擁護等の研修会については、嘱託職員や支援職員以外の職員も積極的に派遣しました。毎月の職員会議において新聞報道のあった虐待事例の検証、自治体やほかの事業所の取組みの紹介、日本知的障害者福祉協会研究誌「さぽーと」からの情報提供、研修報告等による学習会を継続して行いました。嘱託職員、パート職員を対象に年4回、管理者および課長職、看護師から権利擁護や意思決定支援、実際の支援、介助方法についての学習会を実施しました。

項目	参加回数	延人数
事業所外研修	17回	27名
事業所内研修	16回	291名

9) 会議

年度を通して会議の形態や運営の見直しを進め、効率的な審議や議決、報告ができるよう整備を進めました。管理者および役職員による幹部会議を適宜実施し、組織運営等に関する重要事項を検討するとともに、情報の集約と共有を進めました。日常的に朝会や終会等においても利用者のケース検討や情報の共有を行うとともに、月例職員会議にて毎回学習会を行い、福祉を取り巻く情勢や法制度等の共通理解に努めました。

会議名	形態	備考
職員会議	月例	内外の検討・報告事項、ケース検討、研修報告予定確認、学習会等
全体会議	1回	辞令交付後職員全体で事業計画、予算の周知
幹部会議	適宜	検討事項の原案作成、職場内意見の集約
生活支援部会議	月例	生活支援部の検討事項、ケース検討
日中活動担当者会議	月例	就労支援部の検討事項、ケース検討
給食会議	月例	利用者の嗜好調査、給食への意見集約
給食運営会議	月例	給食への意見集約、衛生管理の確認
虐待防止委員会	年2回	利用者の権利擁護に関する会議
感染症対策委員会	適宜	事業所内外での感染症対策に関する会議

10) 実習生・ボランティアの指導

今年度は北海道介護福祉学校から4名の実習生を受け入れました。ボランティアの受け入れは夕張市受託事業の生活困窮者対象の就労体験事業において、年間を通して数名の相談者を受け入れ、環境整備や公用車の清掃、共立作業所での黒板消し製作に従事していただきました。

11) 虐待防止と苦情解決

虐待防止と権利擁護に関しては役職に応じ適切なオンラインでの研修会に参加した他、事業所内での研修会において報道やメディアを活用し、出来るだけ新しい情報を職員間で共有できるよう配慮しました。利用者からの苦情に関しては受け付け次第適宜早急に対応し解決するとともに、日常的に利用者の声に耳を傾け、ケース会議や日々の朝会、終

会等の場で対応を協議しました。

第三者委員による相談日は8月22日と12月25日の2回設定し、感染症対策に配慮し利用者面談を実施したほか、利用者の日中活動の様子や事業所の設備、備品等を視察、また通常の昼食やクリスマスメニューの試食、評価をしていただきました。

2、利用者支援

1) 日中サービス支援型グループホーム利用

感染症対策を徹底しつつ利用者の皆さんの外出や買い物、ご自宅への帰省を段階的にコロナ前の状態に戻すとともに、ゴールデンウィークや夏冬の作業休止期間を中心に、市内の感染状況を見て買い物等の外出支援を行ったほか、事業所内で会食やゲーム大会などのイベントを行いました。また今年度は秋の旅行を3コース、一泊二日で実施しました。

町内会の会合や行事等の地域活動、市内のイベントや学校行事、市内各団体の行事等はほぼ通常開催となり、利用者の希望を募り参加しました。

ご家族の協力をいただき感染症対策を徹底したうえで、年度内帰省した利用者はご家族の事情での長期帰宅も含め7名で延べ人数は70名、延べ日数は227日でした。

2) 通所利用

ご自宅からの通所利用者は5名、グループホームからの利用は20名でした。日中活動の個別支援計画に基づき、それぞれの適性に合った作業種において個々の能力に応じた働く場を提供し、利用者一人ひとりが自立した生活が送れるよう支援に努めました。

3) 保健衛生・健康管理

引き続き年度を通して事業所内の消毒や換気、職員への衛生指導など新型コロナウイルス感染症をはじめとする各種感染症の予防に努めました。定期健康診断は5月31日と11月24日に実施しました。健診結果を協力医療機関に報告することで、必要な検査の受診や日常的な健康管理について情報提供を受けました。3名の方が二次検診対象となり、1名の方が入院手術、1名の方が脂質異常との診断で内服薬治療となりました。胃がん検診では1名の方が指摘を受けましたが、二次検診の結果軽い胃炎とのことで経過観察となりました。また口腔衛生に関しては近隣の協力歯科医療機関と連携し、必要に応じて通院による治療を受けましたが、ブラッシング指導に関しては感染予防の観点から中止し、事業所内での食後のブラッシングサポートを手厚く行いました。

4) 有償移送サービス

S Tネットの有償移送講習を受講した支援スタッフが、協力医療機関以外への通院や研修、個人の用件での外出時等、円滑に利用者を送送できるよう安全運転に努めました。今年度は新たに3名の職員が資格を取得し、有償移送運転者資格取得者は8名となりました。在宅の2名の方も含め、例年の倍近い年度内延べ81名の利用者が協力医療機関以外の通院やお墓参り、帰省等の機会に利用されました。

3、地域支援センターライフネットゆうばり

1) 概況

就労移行支援事業は新規利用者が見込めないため年度途中で休止とし、就労継続支援B型事業を実施しました。他の事業所で就労している利用者に関しては、就労移行支援事業での対応と同様に、先方担当者との情報共有や日常生活支援を継続しました。

就労継続支援B型に関しては年度を通して感染症対策は行いましたが、カレーハウス店舗営業やパンの外部販売などコロナ前の水準に戻り、その他の作業に関しても大きな制限なく活動することが出来ました。工賃に関しては前年度に比べ日中活動収入が増加したことから、減額することなく毎月の給与を支給し6月と年末には賞与を支給しました。

例年実施してきた作業班ごとの事業所見学や外出は出来なかったため、事業所内での会食やレクリエーション活動を行いました。

2) 日中活動支援（作業支援）

①共立製作所

7名の利用者が従事しました。美唄の日本理化学からの黒板消し、ホワイトボード用クリーナー、珠算用すべり粉、布製品等の製作を下請けとして行ってきました。年度途中で受注量の大幅増や緊急の作業依頼がありましたが、恒常的に職員を2名配置し安定した作業活動を提供することが出来ました。室内作業で運動不足になりがちな利用者の健康増進や精神衛生のため、定期的に屋外でのウォーキングを取り入れました。

②グリーンセンター南清水沢

8名の利用者が従事しました。隣接する無償貸与を受けた市有地でのトマト、ナス、ピーマン等の野菜類の栽培や、乾燥機を利用したのドライトマトや切り干し大根、乾燥椎茸の製造販売を行いました。また、地域のコンビニエンスストアと新夕張駅から空き缶等のリサイクル作業の受託や、冬季間は事業所敷地内の除雪を受託したほか、夕張市からの委託事業として高齢者宅と非常用消火栓の除雪作業を行いました。

③ベーカリーめぐみ

6名の利用者が従事しました。市内事業所の感染状況で外部販売が休止となる場面もありましたが、店舗も含め売り上げはコロナ前の状況に戻ってきています。感染症やウクライナ情勢による原材料費の高騰が影響し収益率が下がって来ているので、仕入れの見直しや作業工程の確認、光熱費の削減等の対策を進めました。定期的に新商品を開発販売し好評を得ました。

④手織り工房レラ

5名の利用者が従事しました。さをり織りを中心に、手織り物、絵画などのアートの活動を行いました。販路に関しては夕張観光案内所等市内事業所のほか、南幌めぐみ学園のカフェコーナーの常設販売に出品させていただいていましたが、感染症対策の影響で販売休止の事業所もありました。

⑤カレーハウス朋

2名の利用者が従事しました。店舗での販売は近隣の飲食店の閉鎖による影響や、夕

張市拠点複合施設「りすた」からの来客も多く増加傾向となりました。冬期間限定でのカレーうどんや週替わりでのランチの販売、デザートや飲料メニューの見直しを進め、来客数や客単価が上昇しました。

⑥ビスターリさぼーと

12名の利用者が活動に参加しました。高齢者、病後者を対象とした日中活動の場として日常的な軽作業、野菜作りやレクリエーション、遊具を利用した運動やビデオ体操などのリハビリ的な活動を行ってきました。また、利用者の高齢化で日中活動支援の部分よりも介護支援の部分が多くなってきており、毎日のバイタルチェックや排泄、食事量、水分摂取など、日常生活面での確認や安全面の配慮を重点的に行ってきました。

⑦園内実習（清掃、リネン）

3名の利用者が本体施設の清掃、リネン業務を行いました。業務の中でより社会性を身につけることが出来るよう、業務の精度だけではなく挨拶や勤務時間の遵守等社会参加に向けた取り組みを行いました。

⑧一般就労支援

2名の利用者が特別養護老人ホームと高齢者のグループホームの職員として継続して雇用されました。先方担当者と情報を共有し、職務の内容や勤務形態の調整を行うとともに、利用者とも随時面談し仕事へのアドバイスや心情把握に努めました。

3) 余暇支援

プロジェクターと大型スクリーンを利用し、休日や祭日にセンターカレーハウス店舗部分を活用し映画上映会を数回実施しました。飲み物とおやつを用意し、入所利用者も含め多くの利用者が参加しました。

4) 地域交流

センターを地域の方たちへ開放し、会議や催し物のできる場所として利用して頂きました。「南清水沢ふれあい祭」をはじめ市内の多くの行事やイベントが再開され、イベント販売や地域行事に多くの利用者が参加しました。

5) 地域生活支援

共同生活援助事業所の事務所として、グループホーム紅葉（女性5名）、グループホーム楓（男性5名）、グループホーム緑（女性2名）、グループホームかつら（男性4名）、サテライト（男性2名、女性2名）のバックアップを行ないました。

世話人業務に関しては夕張市シルバー人材センターから人員派遣を受け食事の用意や清掃業務をお願いしてきましたが、今年度はシルバー人材センターの登録者の減少等により恒常的に人員派遣が滞る状況が続き、部分的に事業所職員への業務の切り替えを進めました。

2023年度 しみずさわ短期入所事業所 事業報告

1、概況

2023年度においては日中サービス支援型グループホームライフネットゆうばりでの併設型2床での短期入所事業を実施しました。年度内を通して感染症予防に配慮し利用して頂きました。

2、利用状況

市内在住の男性1名がご家族の事情により長期の利用をしていましたが、ご本人の希望もあり、後見人と相談の上年度途中で日中サービス支援型グループホームの利用に切り替えました。

夕張市在住で相談支援を利用していた男性1名が、ご家族の入院で緊急的に利用されました。

夕張市在住の他事業所の日中活動を利用されている男性1名が、居住する市営住宅の設備整備の間利用されました。

月	人 数	利用日数	備 考
2023年4月	2	43	市内在住男性継続 市内男性
5月	2	43	〃 〃
6月	1	30	〃
7月	1	31	〃
8月	1	31	〃
9月	1	30	〃
10月	0	0	
11月	1	7	市内男性
12月	1	11	〃
2024年1月	0	0	
2月	0	0	
3月	0	0	
計	3	226	

2023年度 しみずさわ共同生活援助事業所 事業報告

1、概況

2023年度においては引き続き介護サービス包括型グループホーム4か所（利用者16名）と、市営住宅を利用したサテライト住宅4か所（利用者4名）を運営しました。シルバー人材センターの登録者の減少等により恒常的に人員派遣が滞る状況が続いたため、部分的に事業所職員への業務の切り替えを進めるとともに、職員の早番遅番の業務内容や、世話人の業務内容に関し適宜見直しを行いました。感染症予防のため市内での感染が確認された時期は全員公用車での送迎を行い、個人での外出も自粛していただきました。

2、利用状況

ホーム名	定員	実利用者
楓	男性5名	5名
紅葉	女性5名	5名
緑	女性2名	2名
かつら	男性4名	4名
サテライト	男性2名、女性2名	4名

3、職員状況

- ・サービス提供管理責任者 1名（常勤）
- ・生活支援員 3名（兼務）
- ・看護師 1名
- ・世話人 5名（兼務1、シルバー人材センター委託4）

4、利用者支援

1) 生活支援

日常の食事作りや掃除等の環境整備に関してはシルバー人材センターに委託し、派遣された4名の世話人により行っていただきましたが、年度途中から部分的に業務を事業所職員に切り替えました。金銭管理や健康管理、日常の相談支援やご家族との連絡に関しては、サービス管理責任者が中心となり、看護師や栄養士が連携を取りながら個別支援にあたりました。また、移動や入浴に関する支援が必要になってきたことから、本体兼務の生活支援員や世話人がきめ細かなチームケアを行いました。年度内で帰省した方は20名中7名でした。

2) 日中活動支援

利用者個々の意向を踏まえ、しみずさわ本体およびライフネットゆうぱりと連携を取りながら、ご本人が意欲を持って取り組めるよう適切な日中活動を提供してきました。感染症対策もあり年度を通して6名の方が送迎支援を利用しました。

就職してグループホームやサテライトから職場に通勤している利用者に関しては、職員が毎日朝夕に健康状態などを確認するとともに、金銭管理や相談支援を継続して行いました。就労先においても就労担当職員が定期的に、電話連絡等で先方担当者と情報交換を行いました。

3) 余暇支援

「南清水沢ふれあい祭」をはじめ市内の多くの行事やイベントが再開され、イベント販売や地域行事に多くの利用者が参加しました。日常的な買い物や外出、散歩に関しても段階的に再開しました。グループホーム敷地内で花壇や家庭菜園のスペースを設け、利用者が年間を通して楽しめるよう整備しました。

令和5年度

静内ベビーホーム事業報告

1. 運営概況

今年度の利用数は、4月の時点で37名と定員には、満たない状態でした。

年度途中の入園もあり、なかでも中途退園がない事も増員に繋がった事と思います。補助金があったことや職員が入園をととても積極的に受け入れをしてくれたことで、安定した経営が出来ました。今後も少子化は続きますが、インスタグラム等を行い、多くの方に知っていただき、働く家庭を支援していきたいと思えます。

0～2歳は『生活とあそび』を中心に保育を行っております。現実問題としては、一人ひとりに丁寧に関わる為の人員の確保が難しくなっております。

2. 園児の状況

4月当初は、園児数も少なく懸念しておりますが、園児が少なかった事で在園児・新入児ともゆったりと関わる事も出来ました。毎月、新入児の受け入れも積極的に行い利用定員に達することが出来ました。

月齢別・月別在籍児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	7	8	11	12	14	16	17	18	18	19	21	22
1歳児	15	16	16	17	17	18	18	19	19	19	20	20
2歳児	15	15	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13
合計	37	39	41	42	44	47	48	50	50	51	54	55

3. 保育状況 (各クラスチーフより)

【0歳児 (つぼみ組)】

生活面において育児担当を意識して保育するよう心掛けた。特に排泄において担当との関りを丁寧に行う事で、子ども達とじっくり関わる時間が増え、やりとりも豊かになった。1対1の信頼関係の大事さを育児担当から感じる事が出来た。わらべうたでは、排泄の時間に1対1で行っていたが、段々とあそびの中でも行う機会が増え楽しむ事ができた。あそびの面では午前睡がなくなる時期ぐらいから、戸外あそびをじっくり取り入れる事が出来た。子ども達の発達に合わせてクラスの会議で玩具の見直しをしたが、入園や進級が多く、玩具の提供の仕方が難しかった。絵本の読み聞かせでは、研修を受けて学んだ事の実践を目指した。1対1で読める場所の設置、と読む時間の確保をしながら、今後に繋げて行きたいと思えます。

【1歳児（つくし）】

4月は進級児、新入児4名スタートであったが入園や進級があり在籍13名となった、途中職員の移動もあり食事等の担当も変更が多々あったがその都度子どもたちには予告をするように声掛けを行った。大きな混乱が見られることはなく過ごすことが出来ていた。新入児に対しても園の生活に慣れるように一対一の対応を心掛け安心できるよう配慮を行った、進級児は毎日の日課が定着している事もあり不安定さを感じることはなかった。

環境は数か月に1回見直しをした、玩具は毎月チーム会議で話し合い一人一人の成長を確認し合いながら入れ替えをした。

巡回対象児に対してはアドバイスをもらいその子の成長に繋がるように職員間での統一やクラス内での共有を行い成長の促したに繋げた。

【1歳児（すみれ組）】

子どもの気持ちの成長に連れ、自己主張が強くなり子ども同士のトラブルも多く、一人一人の対応として子どもを受け入れる姿勢や、言葉がけを心がけるようにした。

子どもの気持ちを汲み取れるように保育士間で状況や様子を伝えあい、周知するようにした。

新入児が入ったことで0歳児継続児にとっては日課が崩されることも多かった。後半、全体で日課が定着すると、次の活動が理解できていた。

排泄面では、トイレでの排泄には子どもたちの意思に任せていた。一人が便器への興味を持ち座ったことから続々とそれを見て真似をしたがり、トイレでの排泄の移行がスムーズだった。

また、遊びにも集中する時期にもあたりトイレへの順番や関心が減ったが、見守っている。

食事でも、絵本を見る順番でも保育士が「次はあなたね」という声掛けを行い、次の保証をしていた。その後は待つことが出来、次は自分か？と聞くようになっていきトラブルや泣くこともほとんどなかった。

【2歳児（たんぽぽ組）】

生活面は育児担当を継続し援助が丁寧に行えるように保育した。細かな成長に気付きがあり、保育士との関係性を育みやすかった。日課を安定させ見通しの持てる園生活は子ども達の安心と遊びの保障に繋げる事ができた。個別の対応が必要な事もあったが、2歳児クラスとしての集団活動も意識した。保育士が見守る中で簡単な鬼ごっこやカードゲームに遊びが発展し、ルールを守って遊ぶ姿がみられた。生活の中で子ども同士共感し、思いやる気持ちの育ちが見られた。

日課の中でも園庭で過ごす戸外活動においては、伸び伸びとした姿があり季節を感じられる経験となった。戸外活動に関しては保護者の理解を得ることができていた。入園当初からの園での一貫した対応が良かったと感じる。

室内環境では遊びのコーナーの整理、興味に合わせた設置を心掛けた。どの位置からでも見守れるように棚の高さや保育士の配置に配慮した。大きなトラブルなく安全に過ごすことができ、安心した環境の中で遊べていた。

子どもの成長を保護者と共有しながら就労を支えられる保育を心掛けた。園の保育に興味を示すというよりは家庭の子育てスタイルがしっかり定まっている印象が強かったが、育児の悩みには寄り添い共に育てる姿勢で対応した。信頼関係のもと子ども達と関わったことに喜びを感じる。

5. 行 事

0～2歳児は保育の中心が「生活とあそび」と考え、子ども達を集めて何かをするという事は行っていません。年に二回は短い時間ではありますが、親子で参加してもらえらる行事を行っております。保護者の皆さんや園児のタイミングで参加できるような時間帯を設定しております。

クリスマス会ではサンタクロースを保護者にさせていただきました。懇談会では入園当初の映像や現在の映像を撮り、保護者のみなさんと一緒に視聴し、その後は雑談をしながら部屋を案内いたしました。どの行事に対しても子どもも大人も喜んでくださりとても嬉しく思います。今後も親子行事で子ども達の負担にならないよう行ってまいりたいと思います。

6. 給 食

「食」の安心・安全を考え、手作り給食行っております。

食材は安全面や園児の健康面を考え、食材の産地等に配慮し、旬の物を積極的に取り入れ提供いたしました。その季節に合ったメニューを提供できました。

おやつホットケーキやイモ類、食べやすさや誤飲を考慮し、9、10か月は5mm角、11か月は細長いスティック状にして出しました。

離乳食への移行や、食材の確認作業を、担当保育士と上手くできず、お互い把握に手間取りました。担当保育士だけでなく、給食も積極的に食材や離乳食の移行の確認をすべき立ったことを反省しています。

【対応食】牛乳を摂取しない意向や食材の硬さ大きさを個々に合わせ提供することが出来ました。

【除去食】除去食は、声出ししながら確認し合い、クラスの担任、検食時に何重にもチェックして、ミスなく配膳できました。

【その他】献立のメニューの重複や、表記抜け、表記ミスがあり反省しています。

今年度は、金具や髪の毛と異物混入が発生し、すぐに対応策を話し合いました。迅速に対応することの大切さ知り、今後もしっかりと行います。その1つとして点検票に項目を増やし、器具などの点検を行う事と、対応マニュアルを作成し、厨房全体に周知する。

7. 保健衛生

子ども達が健康で安全な園生活が送れるよう、安全点検や感染症対策行いを予防に努めました。又、他の感染症も流行り、その都度、保健だよりでのお知らせや玄関へ掲示を行いお知らせしました。

発症すると蔓延する可能性があるため、日頃から掃除の際は、衛生面には特に気を付けました。

7月…ヘルパンギーナ 新型コロナウイルス感染症 パラインフルエンザ

9月…ロタウイルス ヘルパンギーナ コロナウイルス感染症

11月…インフルエンザA型

12月…インフルエンザ アデノウイルス

1月…アデノウイルス コロナウイルス感染症

2. 3月…アデノウイルス

1) 子どもの健康

- ・内科検診 令和5年6月7日 10月31日
- ・歯科検診 令和5年6月28日
- ・身体測定 月1回
- ・その都度 玩具消毒 おむつ交換台 食事テーブル 換気
- ・毎週 お昼寝タオル くつろぎ布団カバー交換 床消毒
- ・毎月 布団持ち帰り
- ・その他 検温 手消毒

2) 職員健康診断

- ・令和5年6月19日 27名 札幌健診センター
- ・令和5年11月 27名 ストレスチェック
- ・調理関係者検便(毎月) 赤痢 虫卵 サルモレラ菌 病原性大腸菌

8. 防災 安全管理

全職員が落ち着いて適切な行動をとれるよう、声を掛け合いながら訓練を実施することが出来ました。実施後の反省や確認、改善点を会議で出し合い協議し、次に活かすようにしました。新入児 退園児で散歩車配置図の人数に変更がある時は、職員室のボードで周知するようにしました。総合避難訓練再開し、通報訓練のほかに人員を派遣していただき消火訓練も行いました。ベビーホームの避難訓練は、職員がいかに迅速に手際よく行動できるかという訓練になります。毎月の訓練をしっかりと行っていきたいと思います。

1) 【避難訓練の状況】

- ・4月・・・避難経路、消火器、リュックサックの持ち物確認
- ・火災訓練・・・年4回(総合避難訓練2回)
- ・地震訓練・・・年5回(大津波1回)
- ・水害訓練・・・年1回
- ・竜巻訓練・・・年1回

2) 【事故報告】

【ヒヤリハット】

- ・転倒口腔内出血・・・4件
- ・誤飲の恐れ・・・2件
- ・誤食・・・1件
- ・転倒・・・5件

3) 【消防設備点検】

実施日	設備等の種類	点検社
令和5年7月12日	消火器 火災報知設備	(株) 苫小牧
令和6年1月19日	漏電火災警報器 誘導等	防災センター

9. 職員研修

1) 外部研修

研 修 日	研 修 名	人数	備 考
6月29日	令和5年度全道施設セミナー	3名	
8月4日	令和5年度特定給食施設等調理従事者講習会	1名	
9月12日	令和5年度主任研修	1名	
10月1日	日高地区保育研修会	9名	
10月5～7日	令和5年度社会福祉法人会計実務講座初級コース	1名	
10月16日	令和5年虐待セミナー	1名	
10月24日	令和5年感染症予防従事者研修会	2名	
11月15日	保育実践セミナー	全職員	
11月17日	令和5年度日高管内栄養管理担当者研修者	1名	
12月3日	保育問題を考える研修会 給食分科会	5名	
12月3日	保育問題を考える研修会	5名	
2月16日	年度末研修 子どもの安心と自由を	2名	
3月19日	新ひだか町幼児教育・保育研修会	12名	

2) 園内研修

	日 程	内 容	講 師
第1回	5月19日(金) 18:30～20:00	救命講習 2歳までの救命救急(心肺蘇生、誤飲、骨折対応)	消防職員
第2回	6月1日(木) 9:30～20:00 質問タイム 13:45～14:30	一人ひとりを大切にする保育の為の見直し ポイント ー環境ー	藤田春義氏
第3回	7月13日(木) 9:30～20:00 座談会 13:45～14:30	一人ひとりを大切にする保育の為の見直し ポイント ー環境ー	藤田春義氏
第4回	9月14日(木) 16:00～18:00	環境整備	職員
第5回	11月15日(水) 18:05～20:05	子どものこころを満たす絵本の活用術 ～絵本を知ると子どもが分かる～	オンライン 内田早苗氏 藤田春義氏

9. 会議の状況

1) 職員

会議名	回数	参加者	内容
職員会議	14回	全職員	月計画反省・協議・連絡
チーフ会議	12回	園長・主任・チーフ	園行事などの企画・クラス状況
給食会議	12回	栄養士・調理員	反省計画他
チーム会議	月1回	各クラス	クラス内の伝達・反省・計画

2) あけぼの会（保護者の会）

会議名	回数	参加者
事務局会議	6回	事務局（園長主任職員2名）
役員会	4回	三役・各部長・事務局
あけぼの会総会	2回	保護者・職員

※参加型で行えました。

10. 地域子育て支援事業

【一時預かり事業】

- ・問い合わせ3件、うち1件利用（0歳児/1名）
- ・就労の為、12月～2月まで10日間程利用し、令和6年度の入園に繋がりました。
この様な利用で、園の様子を知って安心して預けて貰える事が理想と感じました。

令和5年度夕張市受託事業 事業報告

(生活困窮者自立相談支援事業・被保護者就労支援事業・子ども家庭総合支援拠点事業)

1、生活困窮者自立相談支援事業

(1) 実施体制

職員体制については主任相談専門員、相談支援員、就労支援員を配置し、8月末で相談支援員1名が退職、相談対応の状況から欠員補充は行なっていません。相談窓口については相談場所3ヶ所(事業所内、市役所相談室及び複合拠点施設「りすた」)を設置し、必要に応じて各家庭を訪問する形で巡回相談を実施しました。

(2) 支援実績

- ・利用者数は70名、うち相談申し込み者(支援プラン策定者)は13名、再プランを含む支援プラン策定件数は119件、就労者数は13名、増収者は4名。
- ・主な支援内容及び実施件数については、生活相談が70件、就労支援が33件、債務関連が21件、病気・障がいが29件、フードバンクが28件。
- ・支援調整会議については、毎月定例で開催し、その他にケースに合わせて個別でも実施しました。

(3) 地域づくり関連の取り組み状況

- ・市外への夕鉄バス廃線や市内線の減便等に伴い、代替便としてデマンドバスの利用が開始となっておりますが、乗り換え等の複雑さや不便さから活用が難しい方がおり、これらの地域ニーズに対応する為、相談支援事業対応職員が2名「福祉有償運送運転者講習・セダン等運転者講習」を受講し修了証を取得、既に取得していた1名を含めた3名が福祉有償運送(福祉有償移動サービス)への登録を行ない対応しました。
- ・市内法人事業所(特別養護老人ホーム清光園、養護老人ホーム紅葉園、らぶらす、障がい者支援施設博愛舎、地域密着型デイサービスあずましい、ぱれつとふぁーむ、ライフネットゆうばり、相談支援事業所ビンクルム)と連携し、職場見学や就労体験、職場定着を目指した支援の他、生活面や家族関係での相談対応等を実施。又、特別養護老人ホーム清光園、ライフネットゆうばりとは、生活困窮者等に対する安心サポート事業についても連携しました。
- ・北海道社会福祉協議会、夕張市社会福祉協議会とは、特に新型コロナウイルス関連における「生活福祉資金の特例貸付」、その後の償還猶予・免除申請に係る手続き、特例以外の貸付(緊急小口資金)、その他「福祉・介護の職場体験事業」、夕張市社会福祉協議会とは高齢者への対応について、居宅介護事業所のケアマネージャーや生活支援体制整備事業における生活コーディネーターと連携しました。
- ・夕張市各課(生活福祉課、税務課、建設課、市民課、保健福祉課、教育課、地域振興課等)と連携し、相談者の他、その家族についても対応しました。特に高齢者については包括支援係、ひきこもりの方や障がいがある方については生活福祉係と連携し

対応しました。又、市が実施している無料法律相談を活用し、札幌弁護士会等と連携を図りながら、生活や就労、債務関連についても対応を実施しました。

・ハローワーク、夕張市シルバー人材センター、夕張市民生児童委員、各種企業（DADACA、JR東日本、厨房委託業者、夕張ツムラ等）や病院（夕張市立診療所、南清水沢診療所等）、居宅介護事業所とも連携を図りました。

・NPO法人ハンズハーベスト北海道や市内農家と連携し、生活困窮者やひとり親世帯へのフードバンク提供（定例月2回、その他随時）を実施しましたが、6月にハンズハーベストが閉業したことにより定例での提供は中止し随時で対応しました。

その為、NPO法人コミュニティーワーク研究実践センターと連携を図り、他NPO法人であるフードバンクイコロさっぽろと「食のセーフティーネット事業を円滑に進めるための合意書」を締結し、生活困窮度合いが高く食料支援が必要と認める方への支援を実施しました。

（4）その他の取り組み状況

広報活動（ポスター掲示、チラシ・カード型チラシの配布と設置）を実施し相談窓口を広げ、合わせてフリーダイヤルを設置する事で、相談者の金銭面での負担軽減や初回相談を行ないやすい環境を整えました。他、月1回定例の生活相談会を拠点複合施設「りすた」にて開催し、周知については広報ゆうばりや夕張市ホームページに掲載し実施しました。又、ジョブクラブ（就労体験）については、新型コロナウイルス感染症予防の観点から定例での開催は見合わせ、個別での対応を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症が昨年5月から5類へ移行したことに伴い、一部定例での開催も再開しました。その他、相談技術向上の為、各種研修会にリモートも含め参加しました。

2、被保護者就労支援事業

（1）実施体制

職員体制については業務管理責任者、就労支援員、事務補助員を配置。

（2）事業実施内容

生活保護係から選定された就労対象者について、地区担当員と連携を図り、求職活動支援（求人情報の収集及び提供、ハローワーク、職場見学、就労体験、面接等への同行、履歴書作成等）、職場定着へ向けた支援（職場、自宅訪問、電話相談等）、各種連絡調整、個別求人開拓、個別でのジョブクラブの他、生活面での相談対応（生活環境の整備、債務整理）や通院同行等を行ないました。又、定期開催していたジョブクラブについては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から定例での開催は見合わせ、個別での対応を実施してきましたが、新型コロナウイルス感染症が昨年5月から5類へ移行したことに伴い、一部定例での開催を再開しました。

（3）支援実績

登録者数13名、就労支援非対象者9名、ケース共有のみ12名

(4) 各関係機関との連携状況

- ・市内法人事業所（特別養護老人ホーム清光園、養護老人ホーム紅葉園、らぶらす、ぱれつとふぁーむ、障がい者支援施設博愛舎、相談支援事業所ビンクルム等）、一般企業（DADACA等）と連携を図り、職場見学や就労体験、面接同行や職場定着を目指した支援等を実施しました。他、障がい者の就労支援事業所（ライフネットゆうばり）にて、日中活動で提供している軽作業を個別のジョブクラブとして活用しました。
- ・特別養護老人ホーム清光園が実施している就労訓練事業や、北海道社会福祉協議会で実施している介護・福祉の職場体験事業等について、連携を図りながら利用を検討しました。
- ・夕張市各課（生活福祉課、税務課、建設課、市民課、保健福祉課、教育課、地域振興課等）、夕張市社会福祉協議会、ハローワーク、夕張市シルバー人材センターと連携し、相談者の他、その家族についても対応を実施しました。特に高齢者については包括支援係、市外にて障がい者のグループホームでの生活や就労希望がある方については、地区担当員や相談支援事業所ビンクルム、市外の福祉事業所と連携を図りながら、新しい生活の場所を整えました。又、市が実施している無料法律相談を活用し、札幌弁護士会等と連携を図りながら、就労のみではなく生活面や債務関連についても対応を実施しました。
- ・生活保護決定迄の繋ぎとして、NPO法人ハンズハーベスト北海道、コミュニティーワーク研究実践センターと連携を図り、食材や衛生用品（マスク等）の提供を実施しました。他、市内で地域公益活動を実施している事業所（特別養護老人ホーム清光園、ライフネットゆうばり）と連携を図り、生活困窮者等に対する安心サポート事業を活用し、経済的援助を受けることが出来るように対応しました。
- ・厚生労働省から情報提供を受けた「生活困窮者等へ携帯電話等サービスを提供している事業者リスト」をもとにリスタート・ケータイと連携を図り、就労等へ向けて携帯電話を必要としている被保護者への対応を実施しました。

3、子ども家庭総合支援拠点事業

(1) 実施体制

職員体制については業務管理責任者、相談支援員を配置、相談支援員1名が9月末で退職し欠員があり、現在募集しています。

(2) 事業実施内容

(子どもの家庭支援全般に係る業務)

関係機関から子どもの様子について情報提供を受けた場合には、保護者に連絡し家庭での子どもの様子について確認を行ない、必要時には家庭訪問も実施しました。
(要支援児童及び要保護児童等並びに特定妊婦等への支援業務)

夕張市役所生活福祉課生活福祉係の相談員と共に定期訪問する中で、保護者の困り感を共有し、助言や指導を行ないました。

(関係機関との連絡調整)

保育園・子ども園・学校からの発達に課題のある子どもの相談も多く、岩見沢児童相談所の巡回児童相談についても回数を増やして対応をしていただきました。(年6回実施) 検査の結果により経過観察や医療機関の紹介、通院同行、医師診察の場にも同席を行いました。

(婦人相談)

- ・夫婦の離婚に伴う名字の変更の手続きに関する相談には裁判所に同行し申請手続きのサポートを行いました。
- ・金銭トラブルを抱えた相談者については、栗山警察署・夕張市無料法律相談の活用や夕張市の婦人相談員・各課の担当者とも連携を図り対応しました。
- ・市内線廃止に伴い、市外への通院方法の時間や乗り継ぎ、有償移送サービスなどを提案することで、安全に通院が出来るように対応しました。

(3) 支援実績

- ・家庭児童相談受付(実数) 50件 (延べ件数) 369件
- ・婦人相談受付 (実数) 11件 (延べ件数) 144件

(4) 各関係機関との連携状況

(家庭児童相談)

市内の小学校、中学校、高校、認定こども園、放課後等デイサービス「からころ」、ことばの教室、学童、岩見沢児童相談所、医療機関、生活困窮者自立相談支援・被保護者就労支援事業所と連携しました。

(婦人相談)

医療機関(精神科)、夕張市無料法律相談、栗山警察署、夕張市役所市民課、札幌市役所南区保健センター、生活困窮者自立相談支援・被保護者就労支援事業所、障がい者の相談支援事業所と連携しました。

(資料)

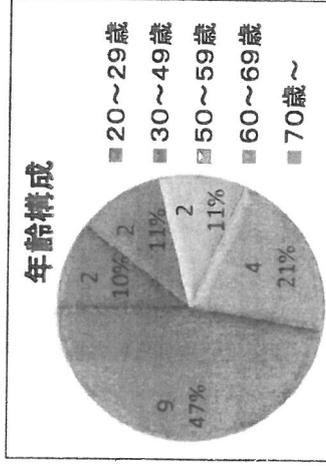
2023年度 運営概況

2024年3月31日現在

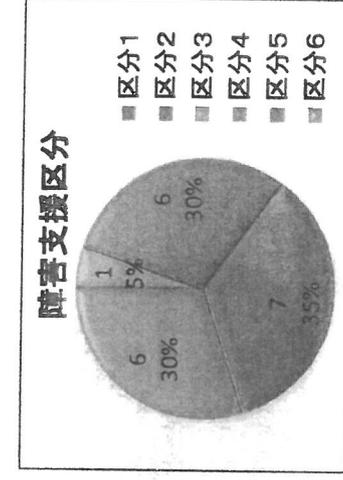
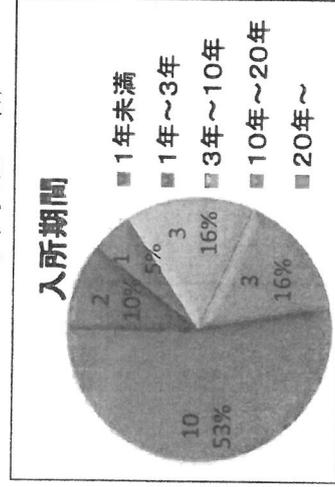
1) 職員配置 総数37名 (男12名、女25名 正規10名、嘱託他27名)

管理者	課長	係長	主任	生活・相談支援員、世話人	サービス管理責任者
1	3	1	1	18 (兼務含)	5
看護師	栄養士	就労支援員	職業指導員	夜勤専門員	事務員
2	1	1	2	4	3 (兼務含)

2) 日中サービス支援型グループホーム入居者の状況(男性10名、女性9名)

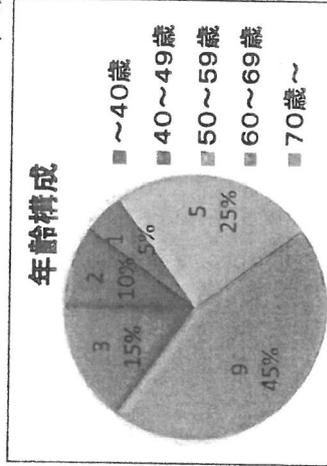


・平均男64.6歳 女63.6歳
全体64.1歳

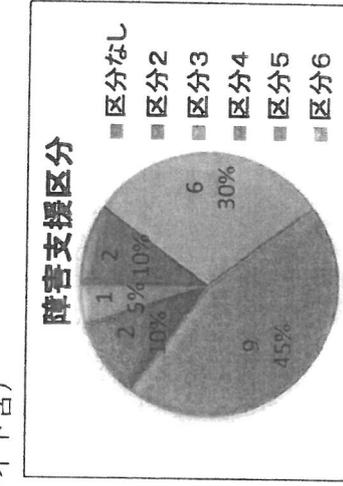
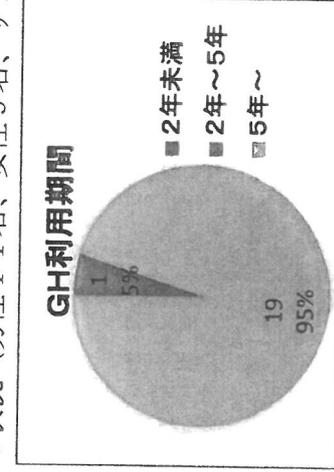


・平均5.1

3) 介護サービス包括型グループホーム入居者の状況 (男性11名、女性9名、サテライト含)

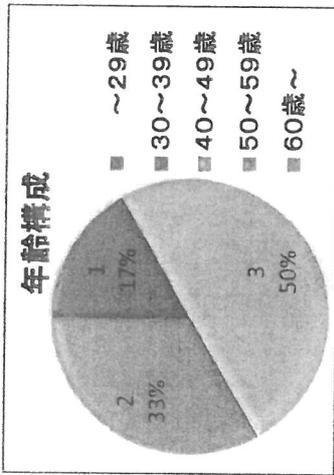


・平均男58.8歳 女61.4歳
全体58.8歳

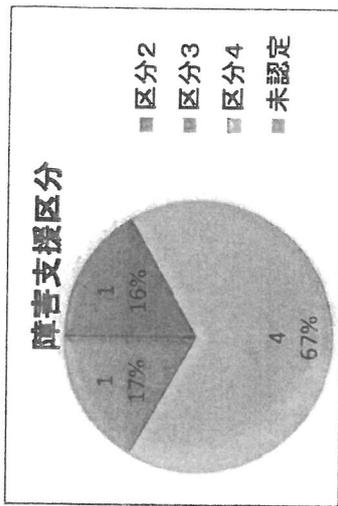
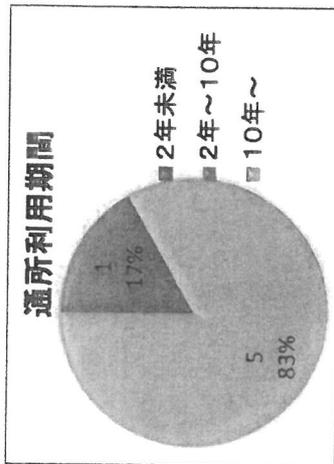


・平均3.7

4) 通所利用者の状況 (男性 4 名、女性 2 名)

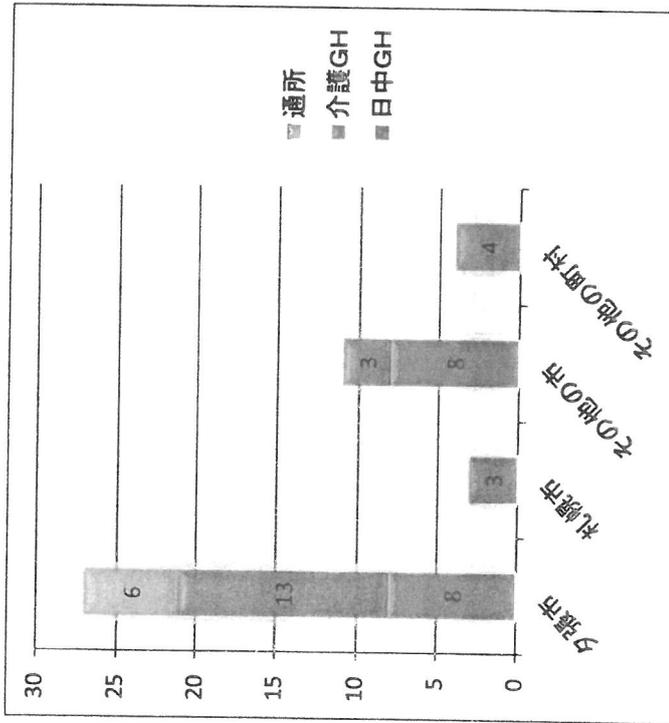


・平均男 39.5歳 女 52.0歳
全体 43.7歳



・平均 3.8

5) 出身市町村



6) 就労支援の状況 約 60 万円増

